

取り扱い

本製品の基本的な取り扱いについて説明しています。

電源の入れ方／切り方	2
バッテリー	9
マウス	16
フラットポイント	25
タッチ機能	28
音量	32
画面の明るさ	34
HDMI 機器	35
光学ドライブ	38
メモリーカード	53
周辺機器の取り扱い	57
電源オフ USB 充電機能	59
USB Type-C 充電・給電ユーティリティ	60
メモリ	63
充電スタンド	70
お手入れ	74

電源の入れ方／切り方

パソコンを使い始めるときや作業を終了するとき、状況によりいくつかの方法があります。

状況	参照先
「Windows を終了する」の手順で終了したあとに利用するとき	Windows をスタートする
普段パソコンを使い終わったあと	スリープにする
普段パソコンを使い始めるとき	スリープから復帰する
パソコンの操作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき しばらくパソコンを使う予定がないとき	Windows を終了する
メモリの増設などパソコン本体内部に触れるとき	パソコンの電源を完全に切る

Windows をスタートする



落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。



AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

重要

- ▶ バッテリ交換可能な機種をお使いの場合、必ず内蔵バッテリーパックが取り付けられた状態でお使いください。
- ▶ パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリー切れによるデータ消失などを防ぐため、必ずAC アダプタを取り付けてください。
- ▶ 内蔵バッテリーパックやAC アダプタを取り付けるときは、変形や破損のないことを確認してください。
- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、キーボードやマウスなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

1 電源ボタン (⏻) を押します。

電源ボタンの位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

電源ボタンを 10 秒以上（モダンスタンバイ非対応機種の場合は 4 秒以上）押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。

電源ランプが点灯し、ロック画面が表示されます（電源ランプの位置は「各部の名称と働き」をご覧ください）。

2 [Enter] を押します。

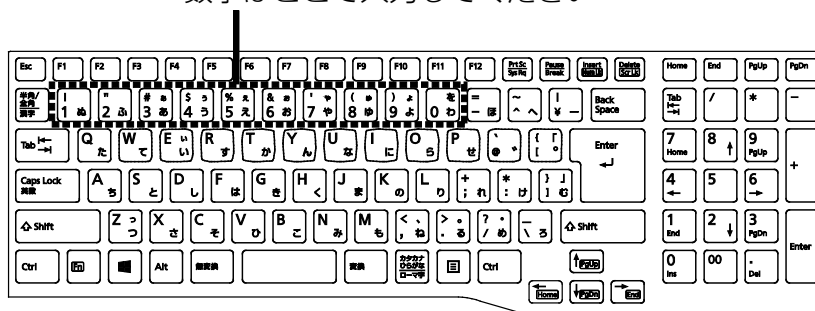
パスワードや PIN を設定している場合は、パスワードや PIN を入力します。

Windows がスタートします。

Point

- ▶ 顔認証対応 Web カメラ搭載機種をお使いの場合は、Windows Hello を使って顔認証でサインインすることもできます。詳しくは「使いこなすために」－「Windows Hello」をご覧ください。
- ▶ テンキー搭載モデルでパスワードや PIN を入力するとき、テンキーで数字を入力できなかった場合は、キーボード上部の数字キーで入力してください。

数字はここで入力してください



（イラストは機種や状況により異なります）

- ▶ Windows がスタートしないときは
 - ・ AC アダプタを接続している場合
AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。
 - ・ バッテリーのみで使う場合
 - バッテリー交換可能な機種をお使いの場合は、内蔵バッテリーパックが正しく取り付けられているか確認してください。
 - バッテリー残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。
残量が少ない場合は、AC アダプタを接続してください。
- それでも Windows がスタートしない場合は、📖『取扱説明書＜スタートガイド＞』の「起動・終了時のトラブル」をご覧ください。

スリープにする

パソコンを使い終わったときは、スリープという状態にしておくことで、次に使うときにすぐに使い始められます。

モダンスタンバイという機能に対応したパソコンでは、対応しているアプリを使うことで、スリープ中に音楽を再生し続けたり、メールを受信したりすることもできます。また、通常のスリープよりも早く起動するので、すぐに使い始めることができます。

モダンスタンバイに対応しているか確認するには、『取扱説明書<スタートガイド>』の「仕様一覧」をご覧ください。

Point

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
- ▶ モダンスタンバイに対応していない機種の場合、ご購入時は、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリーの残量が少なくなると、休止状態に移行するように設定されています。休止状態について、詳しくは「使いこなすために」－「スリープ／休止状態」をご覧ください。
- ▶ 顔認証対応 Web カメラまたは Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

1 電源ボタン (⏻) を押します。

ディスプレイの表示が消え、スリープになります。モダンスタンバイに対応している機種の場合は、スリープ直後、お使いの機種によって次のようになります。

- ・ LIFEBOOK AH シリーズの場合

電源ランプは点灯したままですが、低電力状態になると点滅します。

- ・ LIFEBOOK TH シリーズ、CH シリーズの場合

電源ランプは白色に点灯したままですが、低電力状態になると青色に点灯します。

電源ボタンを 10 秒以上（モダンスタンバイ非対応機種の場合は 4 秒以上）押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。

Point

- ▶ ディスプレイを閉じることで、スリープにすることもできます。詳しくは「使いこなすために」－「スリープ／休止状態」をご覧ください。

スリープから復帰する

1 電源ボタン (⏻) を押します。

電源ボタンを 10 秒以上（モダンスタンバイ非対応機種の場合は 4 秒以上）押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。

2 ロック画面が表示された場合は、次のように操作します。

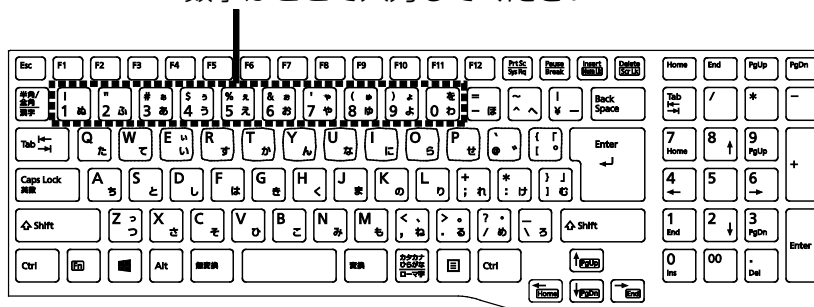
1. **Enter** を押します。

パスワードや PIN を設定している場合は、パスワードや PIN を入力します。

Point

- ▶ 顔認証対応 Web カメラ搭載機種をお使いの場合は、Windows Hello を使って顔認証でサインインすることもできます。詳しくは「使いこなすために」－「Windows Hello」をご覧ください。
- ▶ テンキー搭載モデルでパスワードや PIN を入力するとき、テンキーで数字を入力できなかった場合は、キーボード上部の数字キーで入力してください。

数字はここで入力してください



（イラストは機種や状況により異なります）

- ▶ スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。
- ▶ 復帰（レジューム）させた後は、必ず 10 秒以上たってからスリープしてください。
- ▶ ディスプレイを開くことで、復帰（レジューム）することもできます。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープから復帰（レジューム）させると、Windows の仕様により、画面が表示されない場合があります。
画面が表示されない場合は、キーボードやマウス、およびフラットポイントなどから入力を行うと画面が表示されます。
- ▶ 復帰（レジューム）後、画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープになります。

Windows を終了する

次のようなときは、Windows を終了（シャットダウン）してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの操作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

重要

- ▶ Windows を終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、光学ドライブ搭載機種をお使いの場合は、光学ドライブからディスクを取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切る」（→P.7）をご覧ください、電源を切ってください。
 - ・メモリを取り付ける／取り外す（メモリ交換可能な機種のみ）
 - ・内蔵バッテリーパックを取り外す（バッテリー交換可能な機種のみ）
 - ・BIOS セットアップを起動する
- ▶ Windows がスタートして1分以上たってから終了するようにしてください。

1  ▶ （電源）▶ 「シャットダウン」の順にクリックします。

しばらくすると、Windows が終了します。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、『取扱説明書＜スタートガイド＞』の「起動・終了時のトラブル」をご覧ください。
- ▶ パソコンは Windows を終了した状態でも少量の電力を消費します。バッテリー残量を減らさないためには、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから AC アダプタを取り外してください。バッテリー交換可能な機種をお使いの場合は、内蔵バッテリーパックも取り外してください。
 - ・AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類をきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

パソコンの電源を完全に切る

日常的なパソコンの使用では、この方法で電源を切る必要はありません。

重要

- ▶ 次のような場合に、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・ メモリを取り付ける／取り外す（メモリ交換可能な機種のみ）
 - ・ 内蔵バッテリーパックを取り外す（バッテリー交換可能な機種のみ）
 - ・ BIOS セットアップを起動する
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

- 1  ▶ （設定）▶ 「システム」▶ 「回復」の順にクリックします。
- 2 「PC の起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をクリックします。
- 3 「今すぐ再起動」をクリックします。
- 4 「オプションの選択」画面が表示されたら、「PC の電源を切る」をクリックします。

電源ランプの状態

電源ランプは、パソコンの状態によって次のように動作します。

■ LIFEBOOK AH シリーズの場合

電源ランプの状態	パソコンの状態
点灯	パソコンの電源が入っている
点滅	スリープ [注]
消灯	・ 休止状態 ・ パソコンの電源が切れている

注：モダスタンバイに対応している機種の場合、Windows やアプリの動作状態により、点滅するまでに時間がかかったり、点滅しない場合があります。

<点滅しない例>

- ・ Windows Update などバックグラウンドでの処理中、通信中
- ・ スリープ状態でも利用可能なアプリの実行中（Groove ミュージックなど）
- ・ USB Type-C デバイスなどの外部機器接続時

■ LIFEBOOK TH シリーズ、CH シリーズの場合

電源ランプの状態	パソコンの状態
白色点灯	画面点灯：パソコンが使える状態 画面消灯：スリープ（モダスタンバイ）
青色点灯	スリープ（モダスタンバイー低電力状態） [注]
消灯	・ 休止状態 ・ パソコンの電源が切れている

注：Windows やアプリの動作状態により、青色に点灯するまでに時間がかかったり、青色に点灯しなかったりする場合があります。

<点灯しない例>

- ・ Windows Update などバックグラウンドでの処理中、通信中
- ・ スリープ状態でも利用可能なアプリの実行中（Groove ミュージックなど）

バッテリー

このパソコンは、AC アダプタを使わずにバッテリーのみで動作させることができます。

重要

- ▶ バッテリーのみで使用する場合は、バッテリーが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリーが充電されていない場合がありますので、ご注意ください。
- ▶ Windows を終了しても少量の電力を消費するため、AC アダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

バッテリーの充電

- AC アダプタを接続すると、バッテリーの充電を開始します。充電が始まると、バッテリー充電／残量ランプまたはバッテリステータスランプが点灯します。
- バッテリー残量が 90%以上のときに AC アダプタを取り付けても充電は始まりません。バッテリー残量が少なくなると自動的に充電が始まります。なお、バッテリーユーティリティの設定によっては動作が異なります（「使いこなすために」－「節電」－「バッテリーユーティリティ - 満充電の設定」）。
- 月に一度はバッテリーを充電し、バッテリーの動作を確認してください。
- LIFEBOOK TH シリーズの場合、次の点にご注意ください。
 - ・ バッテリー残量が 5%以下の場合、本パソコンは起動しません。
 - ・ バッテリー残量が 5%以下の場合でも、USB Type-C コネクタから 45V 以上で給電中の場合、本パソコンは起動します。バッテリー残量が 5%以下の場合は、本パソコンに添付の AC アダプタを接続して使用してください。
- LIFEBOOK CH シリーズの場合、次の点にご注意ください。
 - ・ バッテリー運用または USB Type-C コネクタから 45W 未満の Type-C アダプタで給電中の場合、本パソコンは起動しません。

充電状態や残量の確認（LIFEBOOK AH シリーズの場合）

バッテリーの状態は、バッテリー充電／残量ランプ（)で確認します。

バッテリー充電／残量ランプは、次のように表示されます。

● AC アダプタ接続時

ランプの表示	バッテリーの充電状態
オレンジ色点灯	充電中
消灯	充電完了

● AC アダプタ未接続時

ランプの表示	バッテリーの残量
消灯	100～20%
赤色点灯	19%～0%（LOW バッテリ状態）[注]

注：LOW バッテリ状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。

- 次の場合、バッテリー充電／残量ランプが白色とオレンジ色で交互に点滅します（スリープ、休止状態時を除く）。
 - ・ 内蔵バッテリーパックが高温になっている
または、内蔵バッテリーパックが低温になり、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止している
内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ色点灯になり充電を再開します。
 - ・ バッテリーが正しく充電できない
パソコン本体の電源を切り、バッテリーパックを取り付け直してください。それでも解消されない場合はバッテリーの異常です。純正の新しいバッテリーパックと交換してください（→ P.13）。
- バッテリーパック未装着時は、バッテリー充電／残量ランプは消灯します。
- バッテリー残量が少なくなると、バッテリー残量不足を通知する警告画面が表示され、その後しばらくすると、強制的に休止状態に移行します。バッテリー残量不足の警告画面が表示されたら、すぐに AC アダプタを接続してください。
- 表示されるバッテリーの残量は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

充電状態や残量の確認（LIFEBOOK TH シリーズ、CH シリーズの場合）

バッテリーの状態は、バッテリーステータスランプ（)で確認します。

バッテリーステータスランプは、次のように表示されます。

● AC アダプタ接続時

ランプの表示	バッテリーの充電状態
オレンジ色点灯	充電中
消灯	充電完了

● AC アダプタ未接続時

ランプの表示	バッテリーの残量
消灯	100～21%
赤色点灯	20%～0%（LOW バッテリー状態）[注]

注：LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。

モダンスタンバイの状態では、長い間隔で点滅します。

- 次の場合、バッテリーステータスランプがオレンジ色で点滅します。
 - ・ 内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなった場合
 - ・ 冷やされて温度が低くなったときに、バッテリー保護機能が働いて充電を停止している場合
 内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ色の点灯になり充電を再開します。
- バッテリーステータスランプが短い間隔で赤色で点滅する場合は、バッテリーが異常です。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に内蔵バッテリーパックの交換を依頼してください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書<スタートガイド>』の「お問い合わせ窓口のご紹介」をご覧ください。
- バッテリー残量が少なくなると、バッテリー残量不足を通知する警告画面が表示され、その後しばらくすると、強制的に休止状態に移行します。バッテリー残量不足の警告画面が表示されたら、すぐに AC アダプタを接続してください。
- 表示されるバッテリーの残量は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

バッテリーパックの取り扱い上の注意

バッテリー交換可能な機種のみ

- バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー駆動時間が短くなります。駆動時間が極端に短くなってきたら、純正の新しいバッテリーパックに交換してください。使用できるバッテリーパックについては、製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。
- バッテリーの交換時に、ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落としたりしないように注意してください。



バッテリーパックの交換を行う場合は、パソコンの電源を必ず切り AC アダプタを取り外してください。また、パソコンやバッテリーパックのコネクタに触れないでください。

感電や故障の原因となります。



取り外したネジなどの部品は、小さなお子様の手の届かない場所に置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



- ▶ 取り外した内蔵バッテリーパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
- ▶ 内蔵バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。リサイクルについては、『取扱説明書＜スタートガイド＞』の「富士通パソコンを廃棄・リサイクルするときは」をご覧ください。

内蔵バッテリーパックの交換方法

バッテリー交換可能な機種のみ

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)を使って本書をご覧くださいことをお勧めします。「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)について詳しくは📖『取扱説明書<スタートガイド>』の「この後の使い方」をご覧ください。

■ 必要なものを用意する

● プラスドライバー (ドライバーサイズ: 1 番)

ネジのサイズにあったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

■ 交換方法

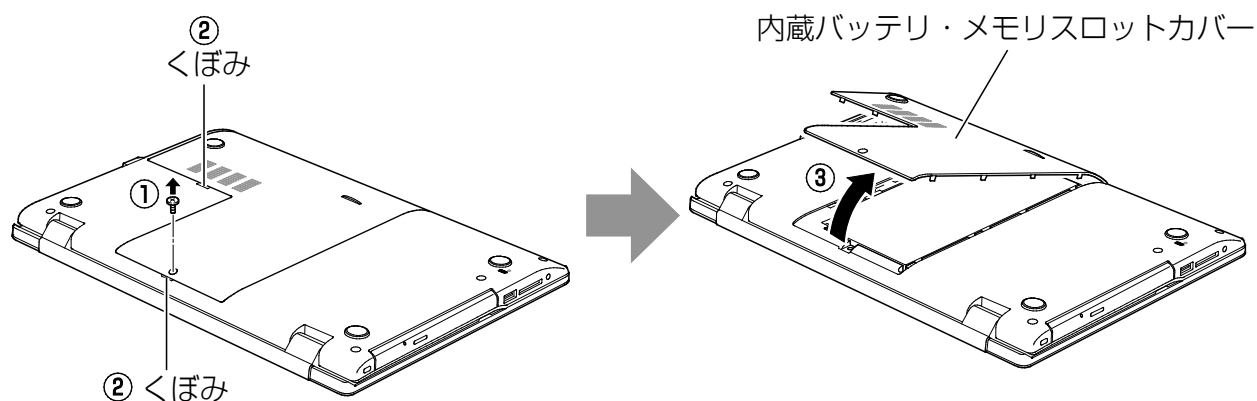
1 パソコンの電源を切り (→P.7)、10 分ほど待ってから AC アダプタを取り外します。

電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。

2 ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 内蔵バッテリー・メモリスロットカバーを取り外します。

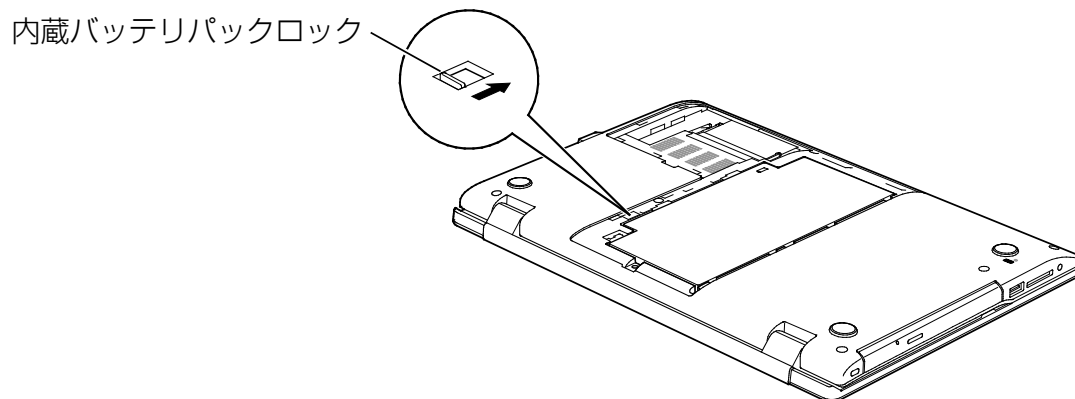
①ネジ (1 ヶ所) を取り外します。②くぼみ (2 ヶ所) に指をかけ、③内蔵バッテリー・メモリスロットカバーを斜め上方向に持ち上げて取り外します。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

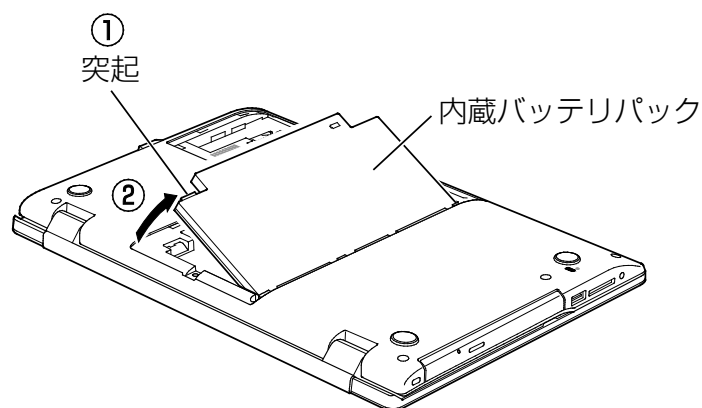
4 内蔵バッテリーパックロックを解除します。

内蔵バッテリーパックロックを矢印の方向にスライドさせます。



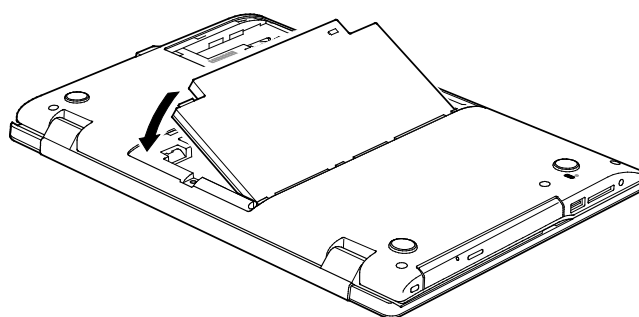
5 内蔵バッテリーパックを取り外します。

① 突起に指をかけて、②内蔵バッテリーパックを斜めに持ち上げて取り外します。



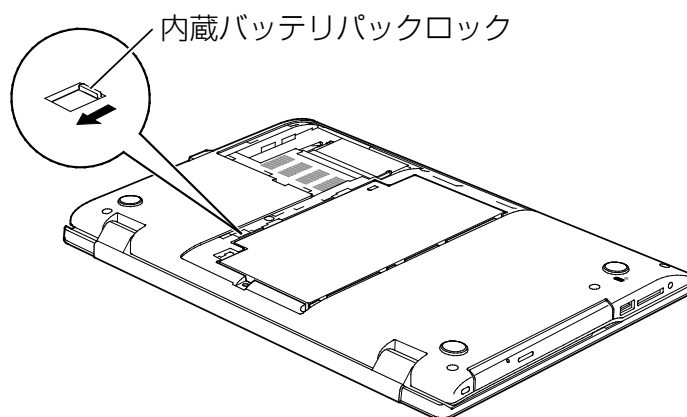
6 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

内蔵バッテリーパックロックのロックが解除されていること（→手順 4）を確認した後、新しい内蔵バッテリーパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとはめこみます。



7 内蔵バッテリーパックロックをロックします。

内蔵バッテリーパックロックを矢印の方向にスライドさせます。

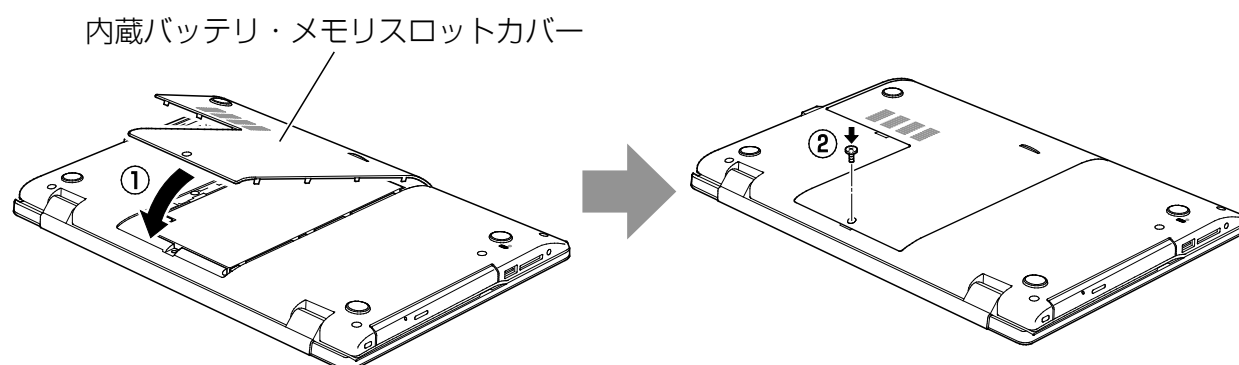


重要

- ▶ 内蔵バッテリーパックロックは必ず矢印の方向にスライドさせてください。スライドさせないと、このパソコンが正しく動作しない場合があります。

8 内蔵バッテリー・メモリスロットカバーを取り付けます。

①内蔵バッテリー・メモリスロットカバーのふちとパソコン本体のふちを合わせ、内蔵バッテリー・メモリスロットカバーをしっかりとはめこみます。②ネジ穴を合わせてネジ（1ヶ所）で固定します。



マウス

Bluetooth マウス添付機種のみ

ご購入時に添付されているマウスは、底面からの光により照らし出されている陰影を検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使うことができます。

マウスをお使いになるうえでの注意

ご購入時に添付されているマウスを使うときの注意事項について説明します。

- マウス底面から発せられている光は、目に悪い影響を与えることがあります。直接見ないようにしてください。
- センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 発光部分を他の用途に使わないでください。
- 次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- このマウスは非接触でマウスの動きを検知しているため特にマウスパッドを必要としませんが、マウス本体は接触しているため、傷が付きやすい机やテーブルの上では、傷防止のためにマウスパッドなどを使うことをお勧めします。
- 使用に適した配置
Bluetooth マウスは、無線でパソコンに信号を送ります。
信号を受けるマウスアンテナは、パソコン本体に搭載されています。
マウスは、次のような場所でお使いください。
 - ・ 机の上など平らで安定した場所
 - ・ パソコン本体と同じくらいの高さで、操作に十分なスペースがとれる場所
 - ・ パソコン本体から約 3m 以内の場所

- 使用環境について

次のような環境では、周囲からの電波を受けて、マウスがうまく動作しないことがあります。設置場所を変えるなど、通信の妨げとなる原因を取り除いてください。

- ・ マウスとパソコン本体との距離が離れすぎている場合
- ・ パソコン本体とマウスとの間に、電気・電子機器や金属製のものを置いている場合
- ・ パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に載せている場合
- ・ 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している場合
- ・ パソコン本体周辺に金属製の物（スチール製の机、金属部分がある机）がある場合
- ・ 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある場合
（パソコンを複数台でお使いの場合や、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合、または無線局の近隣でお使いの場合など）
- ・ パソコン本体を電子レンジの近くに置いている場合
- ・ Bluetooth マウスを使用したパソコンを近くで使用している場合

- 電池の消耗を抑えるため、マウスを動かさない状態が約 20 秒続くと、スリープモードに入ります。

- 1.5V のアルカリ乾電池をお使いください。

マンガン乾電池などは、お使いにならないでください。十分な機能・性能で動作しない場合があったり、電池寿命が極端に短くなったりします。また故障の原因となる場合があります。

- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。

すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい電池に交換してください。

- 新しい電池を使用した場合、電池の寿命の目安は、1 日 3.5 時間の使用で約 6 ヶ月です。

ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。電池の寿命は、お使いの状況によって大幅に変わります。

- パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。

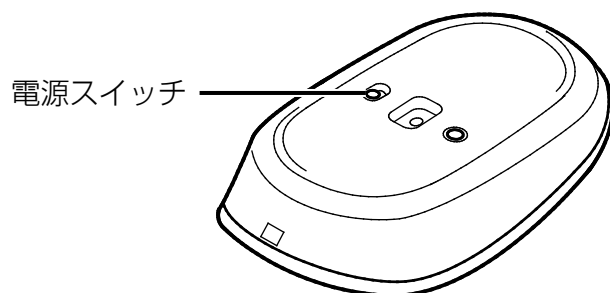
パソコン本体の電源が入ってなくても、マウスが動作していると電池が消費されます。また、マウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。

- 長期間使用しないときは、電池を取り出してください。

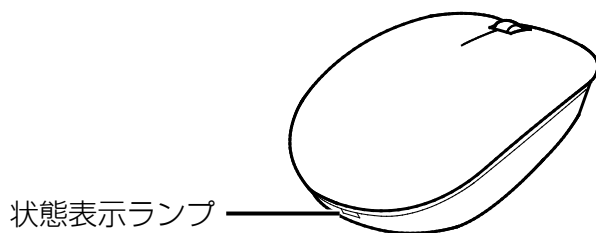
マウスは、使用せずに放置していても、電池は消耗します。長期間使用しないときは、電池を取り出してください。

- 電池の消耗を抑えるためには

マウスを使用しないときは、電源スイッチを OFF 側にして電源を切っておくことをお勧めします。



- マウスの電池の消耗状態は、状態表示ランプをご覧ください。状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、お早めに新しい電池に交換してください（表示は目安です）。



上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DS-SS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 10m です。

この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- ・ この機器を使用する前に、近くに医療機関や工場がないことを確認してください。
- ・ 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止してください。
- ・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。
- ・ 不明な点、その他お困りのことが起きたときは、お買い求めの販売店または「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお申しつけください。

各部の名称と働き



(イラストは機種や状況により異なります)

1 左ボタン

クリックするとき押します。

2 スクロールホイール

- ・ ホイールを回すと、画面を上下にスクロールできます。
- ・ ホイールを左右に倒すと、左右にスクロール（水平スクロール）できます。

3 右ボタン

右クリックするとき押します。

4 状態表示ランプ

マウスの電池の消耗状態やパソコンとの認識状態が表示されます。

5 電池ボックス

単4形電池を2本入れます。

6 電源スイッチ

マウスの電源を入れたり切ったりします。

7 CONNECT ボタン

マウスをパソコンに再認識させるときに押します（→P.23）。

マウスの使い方

ここでは、ご購入時に添付されているマウスの使い方について説明します。

Point

▶ マウスの設定について

マウスの設定は次の手順で表示する設定画面で変更できます。ただし、設定項目によっては設定が反映されない場合があります。

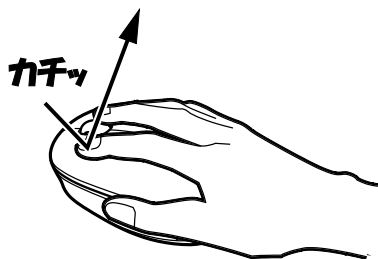
1.  ▶  (設定) ▶ 「Bluetooth とデバイス」▶ 「マウス」の順にクリックします。

▶ スクロール機能や、ホイールを左右に倒したときの機能は、使用するアプリによって動作が異なることや、お使いになれないことがあります。

▶ スクロールホイールを押したときの動作は、お使いの状況により異なります。

■ クリック

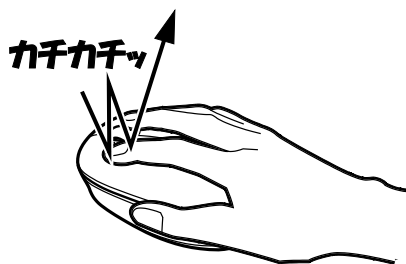
左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

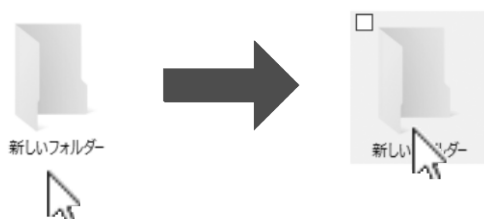
■ ダブルクリック

左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。



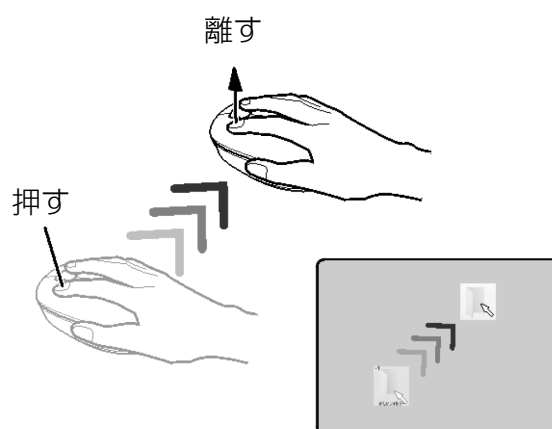
■ ポイント

マウスポインター () をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



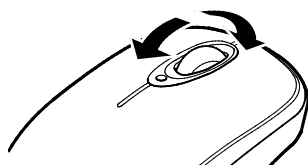
■ ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター（）で掴むようにして移動させることです。マウスポインター（）を任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置までマウスを移動し、指を離します。



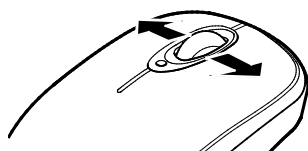
■ スクロール

スクロールホイールを回して、画面の表示を動かすことです。



■ スクロールホイールを左右に倒す

左右にスクロール（水平スクロール）できます。



電池を交換する



電池ボックスに金属物を入れたり、落としたりしないでください。
故障の原因となることがあります。



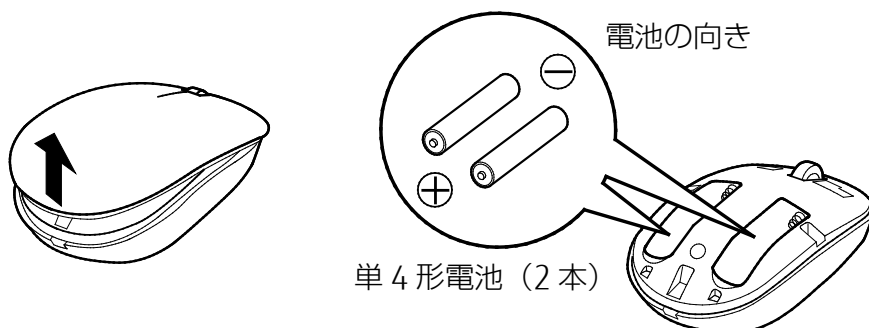
使い切って寿命のなくなった電池はすぐに取り出してください。電池の液もれなどの原因となることがあります。



使用済み乾電池を充電して使用しないでください。
液もれ、破裂の原因になります。

1 マウス表面部分を後方から持ち上げ、フタを外します。電池を取り出した後、新しい電池を入れます。

電池を入れるときには、マウスのボタンを押さないように注意してください。正常に動作しなくなる場合があります。

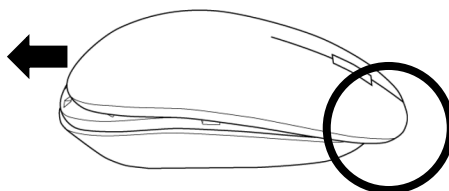


Point

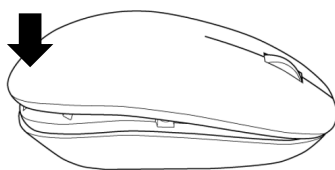
▶ 電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

2 フタをマウス本体の前方に少しはみ出すように載せ、ツメをひっかけながら、フタを後方にスライドさせます。

フタの前方が浮く場合は、もう一度やり直してください。無理に取り付けると破損することがあります。ご注意ください。



3 ツメがひっかかったら、フタの後方を上から軽く押します。



マウスをパソコンに再認識させる

通常お使いの場合は、マウスをパソコンに一度認識させれば、再認識させる必要はありません。ただし、次のような場合は、マウスを再度パソコンに認識させて、正常に動作するようにしてください。

- パソコン本体、マウスを修理した場合
- 新たにマウスを入手した場合
- マウスが正しく動作しない場合
- 近くで使っているパソコンのキーボードやマウスによって、このパソコンが誤動作する場合
- 2 台以上のパソコンを使用している場合

電波の混信や誤動作を避けるため、マウスとパソコンは 1 対 1 で設定する必要があります。

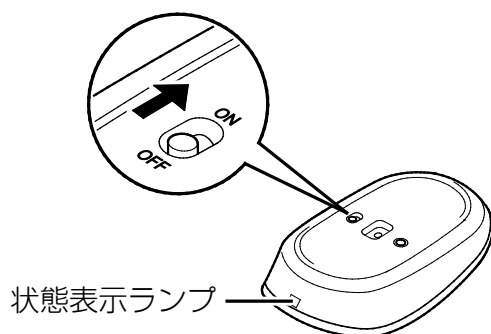
重要

- ▶ パソコン本体を修理した場合、マウスを再認識させる必要があります。
- ▶ パソコンに再認識させるときの注意
 - ・ パソコンを設置している環境を確認してください。
 - ・ パソコンから 50cm 以内で再認識させてください。

Point

- ▶ 電池の交換などで電池を取り出した場合は、マウスがパソコンに認識された状態になっています。再認識させる必要はありません。

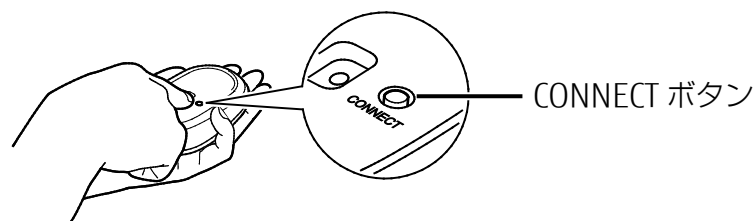
1 マウスの電源スイッチを ON 側にして、電源を入れます。



- 2** 状態表示ランプが点滅していない場合は、マウス底面の CONNECT ボタンを指で約 3 秒間押し、状態表示ランプが点滅したら離します。

点滅しているときにマウスの設定を行うことができます。

CONNECT ボタンを押すときは他のボタンを押さないように注意してください。



- 3**  ▶  (設定) ▶ 「Bluetooth とデバイス」▶ 「デバイスを追加」の順にクリックします。

「デバイスを追加する」ウィンドウが表示されます。

- 4** 「Bluetooth」をクリックします。

- 5** 「FUJITSU MOUSE01」をクリックします。

- 6** 「デバイスの準備が整いました!」と表示されたら、「完了」をクリックします。

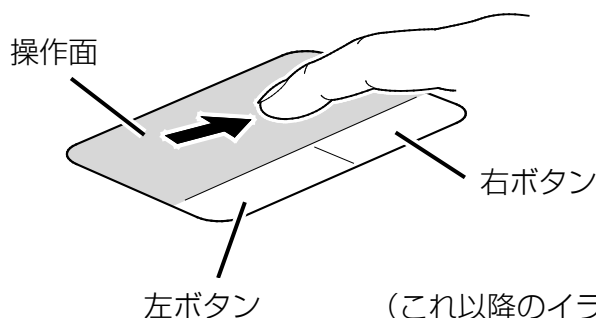
これでマウスがパソコンに認識されました。

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かしたり、画面やウィンドウの表示を切り替えたりすることができるポインティングデバイスです。

操作面を指先でなぞることで、画面上のマウスポインターを移動させることができます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリにより異なります。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

フラットポイントをお使いになるうえでの注意

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントの操作面で操作するときは、指の先が接触するようにしてください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

Point

- ▶ フラットポイントの詳しい設定方法については、「使いこなすために」－「フラットポイント」をご覧ください。

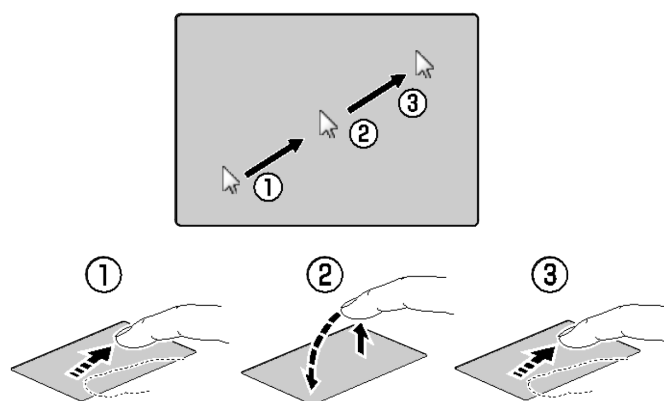
フラットポイントの基本的な使い方

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。

■ マウスポインター（）を移動させる

操作面を指先でなぞります。

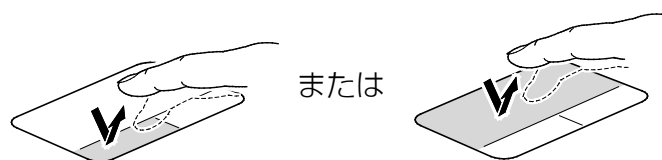
指が操作面の端まできたら、いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインター（）は動きません。



指を離している間、マウスポインターは動きません。

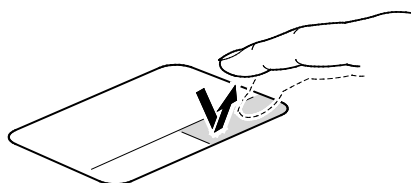
■ クリック

左ボタンを 1 回押してすぐに離すか、操作面を 1 回軽くたたく（タップする）ことです。



■ 右クリック

右ボタンを 1 回押してすぐに離すことを「右クリック」といいます。



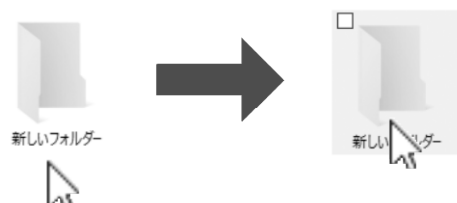
■ ダブルクリック

左ボタンを 2 回連続して押すか、操作面を 2 回連続して軽くたたく（タップする）ことです。



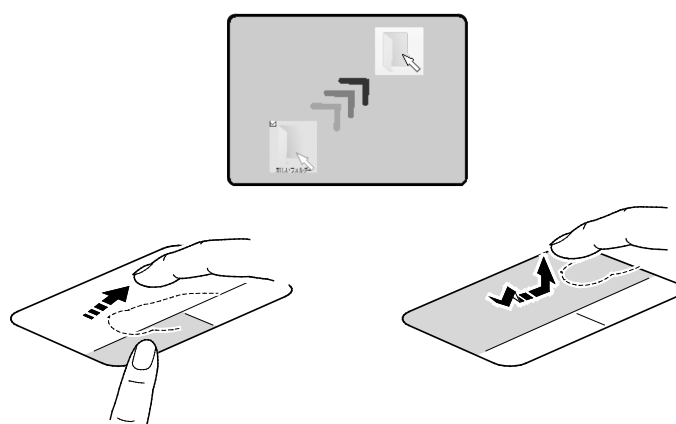
■ ポイント

マウスポインター（）をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



■ ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター（）で掴むようにして移動させることです。左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。または、操作面を素早く2回タップし、2回目のタップのときに指を操作面上から離さずになぞり、希望の位置で指を離します。



フラットポイントの設定を変更する方法など、詳しくは「使いこなすために」－「フラットポイント」をご覧ください。

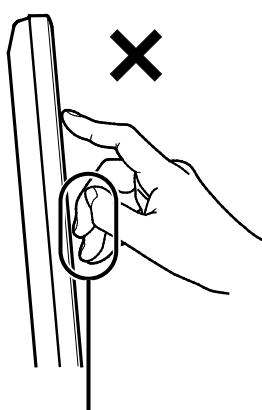
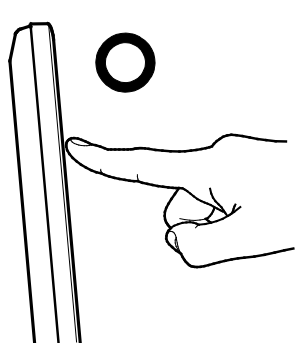
タッチ機能

タッチパネル搭載機種のみ

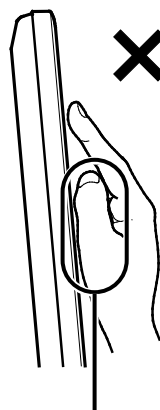
このパソコンは、ディスプレイを直接指先でタッチして操作できるタッチ機能（タッチパネル）を搭載しています。画面を指でタッチするだけで操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

タッチ機能をお使いになるうえでの注意

- ディスプレイを軽く触れるだけでタッチ機能を利用できますので、ディスプレイを強く押さないでください。
- ディスプレイ表面をひっかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- アプリによっては、次のような場合があります。この場合は、マウスやフラットポイントをお使いください。
 - ・ タッチ操作しづらい
 - ・ タッチ機能の反応が悪い
 - ・ タッチ機能に対応していない
- 爪や手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。
- 指の腹でタッチしたり、タッチしない指や手のひらをディスプレイに近づけすぎたりしないでください。タッチした位置が正しく認識されないことがあります。



タッチしない指がディスプレイに触れていたり近づいていたりする



タッチしない指や手のひらがディスプレイに近づいている

（イラストは機種や状況により異なります）

- ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。ディスプレイは、ときどき清掃してください（→P.75）。

Point

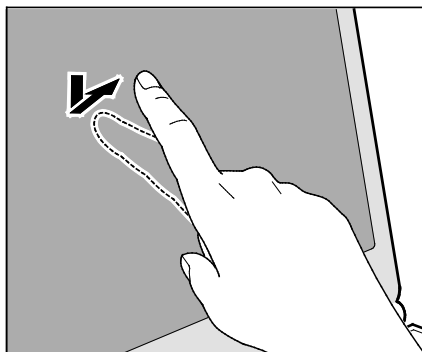
- ▶ 「タブレット PC 設定」ウィンドウの「画面」タブにある「調整」をクリックして表示される画面で、タッチする位置を調整しないでください。調整してしまった場合は、ご購入時の設定に戻してください。ご購入時の設定に戻す方法は、次のとおりです。
 1.  ▶ 「すべてのアプリ」▶ 「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。
 2. 「ハードウェアとサウンド」▶ 「タブレット PC 設定」の順にクリックします。
「タブレット PC 設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「画面」タブで、「リセット」をクリックします。
ご購入時の設定に戻ります。
- ▶ このパソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。

タッチ機能を使う

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）をする場合は、指で操作します。マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。タッチ機能を使った主な操作は次のとおりです。

■ タップ

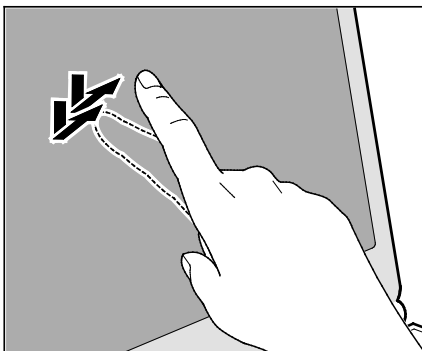
画面を 1 回軽くたたきます。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

■ ダブルタップ

画面を 2 回連続して軽くたたきます。

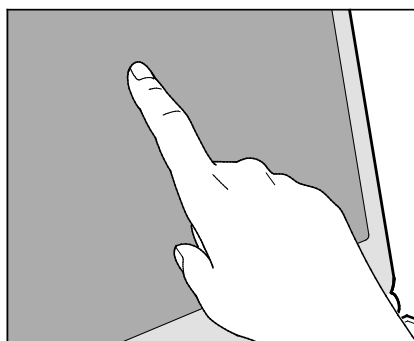


■ 長押し

1 本指で画面を触れた状態でしばらく待ち、枠が表示されたら画面から指を離します。
マウスの右クリックと同様の動作となります。

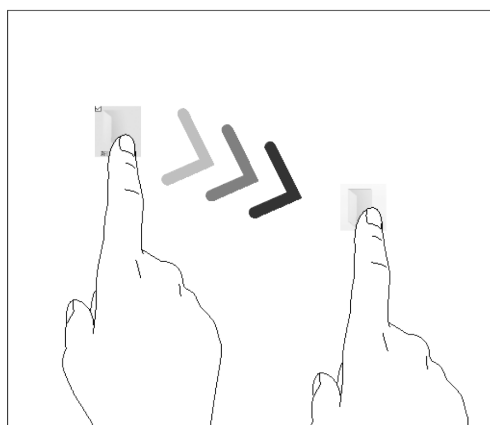
■ ポイント

画面に軽く触れます。



■ ドラッグ

画面に指を軽く押しつけながらずります。



■ 拡大／縮小

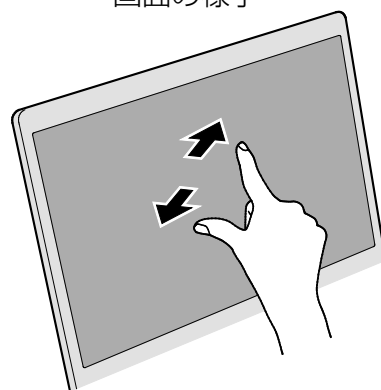
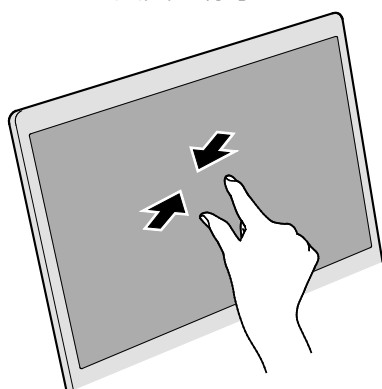
2本指を画面に軽く押しつけながら指を開いたりつまんだりします。開くと画像やウィンドウ内の画面が拡大表示され、つまむと縮小表示されます。



画面の様子



画面の様子



音量

次の方法で音量を調節できます。

重要

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調節してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

■ 画面上で調節する

画面右下の    をクリックし、次のように操作します。

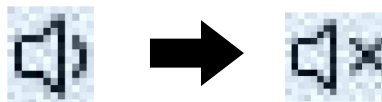
- 音量を調節する
スライダーを左右に動かします。



音量小 ←————→ 音量大

(画面は機種や状況により異なります)

- 音を消す
スライダーの左にある  をクリックします。

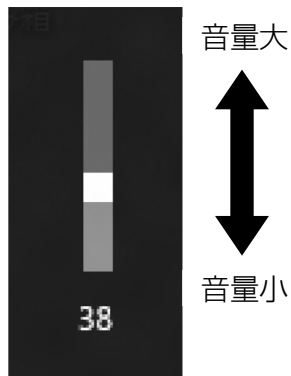


(画面は機種や状況により異なります)

もう一度クリックすると音が出るようになります。

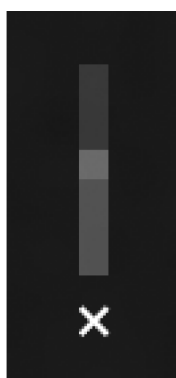
■ キーボードで調節する

- 音量を大きくする
[Fn] を押しながら、[F9] を押します。
- 音量を小さくする
[Fn] を押しながら、[F8] を押します。



(画面は機種や状況により異なります)

- 音を消す
[Fn] を押しながら、[F3] を押します。



(画面は機種や状況により異なります)

もう一度押すと、音が出るようになります。

Point

- ▶ フラットポイントを使って、音量を調節することもできます。詳しくは、「使いこなすために」－「フラットポイント」をご覧ください。

画面の明るさ

次の方法で画面の明るさを調節できます。

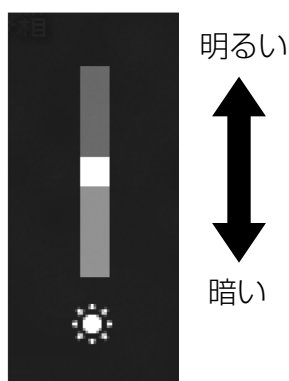
■ 画面上で調節する

- 1 画面右下の    をクリックします。
- 2  をスライドさせて、明るさを調整します。



■ キーボードで調節する

- 明るくする
Fn を押しながら、F7 を押します。
- 暗くする
Fn を押しながら、F6 を押します。



(画面は機種や状況により異なります)

Point

▶ 明るさの設定について

- ・ パソコンを再起動したり、スリープから復帰（レジューム）したり、AC アダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。

HDMI 機器

外部ディスプレイを接続して、パソコン本体ともう 1 つの画面にパソコンの画像を表示することができます。

別売の当社製 Windows Mixed Reality Headset & Motion Controllers を接続すれば、手軽に Windows Mixed Reality の世界を楽しめます。

HDMI 出力端子と HDMI 入力端子

外部にパソコンの映像を出力する「HDMI 出力端子」が、LIFEB00K AH シリーズ、CH シリーズはパソコン本体に、LIFEB00K TH シリーズは充電スタンドに 1 つ搭載されています。

LIFEB00K CH シリーズは、「HDMI 出力端子」を、外部の機器から映像を入力する「HDMI 入力端子」に切り替えることもできます。

LIFEB00K TH シリーズの充電スタンドの「HDMI 出力端子」について詳しくは「充電スタンド」(→P.70)をご覧ください。

HDMI 出力端子を使う

■ HDMI 出力端子をお使いになる場合の注意

このパソコンには、パソコンの画面を外部ディスプレイなどに出力することができる HDMI 出力端子を搭載しています。ご利用にあたり、次の点にご注意ください。

- 外部ディスプレイなど、映像機器との接続には、市販の HDMI ケーブルが必要です。接続する機器によっては、表示できないことがあります。
- 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「使いこなすために」－「ディスプレイ」をご覧ください。
- このパソコンの HDMI 出力端子に映像機器を接続した場合、プライマリ設定は外付け映像機器になり、音声も外部機器から出力されます。音声をパソコン本体のスピーカーで楽しみたい場合は、次の手順で設定を変更してください。
 - 1.画面右下の    をクリックします。
 - 2.大音量で音が出ることを防ぐため、事前に音量を小さめに調整します。
 3.  をクリックしたあと、「スピーカー (Realtek High Definition Audio)」をクリックします。

■ HDMI 機器を接続する

- 1 LIFEBOOK CH シリーズをお使いの場合は、**[Fn]** を押しながら **[F12]** を押して HDMI 入力ランプを消灯します。

このキーを押すごとに、HDMI 入力ランプの点灯と消灯が切り替わります。

HDMI 入力ランプの位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

- 2 市販の HDMI ケーブルで、パソコン本体の HDMI 出力端子に HDMI 機器を接続します。

HDMI 出力端子の位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

HDMI 入力端子を使う（LIFEBOOK CH シリーズのみ）

■ HDMI 入力端子をお使いになる場合の注意

このパソコンには、接続したゲーム機や AV 機器の映像を楽しむことができる HDMI 入力端子を搭載しています。ご利用にあたり、次の点にご注意ください。

- 最大解像度は 1920×1080 です。それ以上高い解像度のデータをそのまま表示させることはできません。
- 映像機器との接続には、市販の HDMI ケーブルが必要です。接続する機器によっては、表示できないことがあります。
- DVD（WinDVD）など、著作権保護技術により暗号化されているデジタル映像をパソコンで視聴中に HDMI 機器の画面に切り換えると、デジタル映像表示が中断されることがあります。HDMI 機器の画面に切り換える前に、あらかじめ「WinDVD」を終了してください。
- HDMI 出力機器の映像信号が 1080i（1125i）または 480i（525i）のインターレースはサポートしていません。出力機器側で、1080p（1125p）、720p（750p）、480p（525p）のいずれかのプログレッシブに変更してお使いください。
- 市販の DVI-HDMI 変換ケーブルを使用した場合、映像信号のみが送られるため音声は出力されません。

■ HDMI 機器の映像を画面に表示する

1 **Fn** を押しながら **F12** を押して HDMI 入力ランプを点灯します。

このキーを押すごとに、HDMI 入力ランプの点灯と消灯が切り替わります。
HDMI 入力ランプの位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

2 市販の HDMI ケーブルで、パソコン本体の HDMI 入力／出力端子に HDMI 機器を接続します。

HDMI 入力／出力端子に接続した機器の画面が表示されます。

画面が表示されるまで、1～2 秒かかります。

Fn を押しながら **F12** を押すたびに、次のように画面が切り替わります。

・パソコンが起動中の場合

パソコンと HDMI 機器の画面が切り替わります。

・パソコンの電源が切れている場合、または、休止状態の場合

HDMI 入力／出力端子に接続した機器の画面の表示と非表示が切り替わります。

HDMI 入力／出力端子の位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

Point

- ▶ HDMI 入力／出力端子に接続した機器の画面を表示しているときは、**Fn** + **F3**（音声出力の ON/OFF の切り替え）、**Fn** + **F6** / **F7**（画面の明るさの調整）、**Fn** + **F8** / **F9**（音量の調節）のみ操作できます。次のボタンなどはお使いになれません。
電源ボタン、フラットポイント、前述以外のキーボード操作

光学ドライブ

光学ドライブ搭載機種のみ

このパソコンでは、CD や DVD、Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) などのディスクの再生や読み出し／書き込みを行うことができます。

著作物の録音や複製に関する注意

- 音楽や画像などの著作物は、著作権法で保護されています。録音・複製（データ形式の変換を含む）などは、お客様個人またはご家庭内で楽しむ目的でのみ、行うことができます。音楽や画像をネットワーク上で配信するなど、上記目的を超える場合は、著作権者の許諾が必要です。
- 著作権を保護されたディスクはコピーできません。
ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。このパソコンでは、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証機能が用意されています。著作権を保護されたデータなどをコピーしても、再生できません。

ディスクをお使いになるうえでの注意

- ディスクの再生中や書き込み／書き換え中は、振動や衝撃を与えないでください。
- 次の場合は、パソコンに AC アダプタを取り付けることをお勧めします。
 - ・ ディスクに頻繁にアクセスする場合
 - ・ ディスクに書き込み／書き換えをする場合
 - ・ 長時間再生する場合
- Blu-ray Disc をご覧になるとき (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) は、パソコンに AC アダプタを必ず取り付けてください。
- ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触らないようにしてください。
- ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などを付けないでください。
- ディスクは両面ともラベルを貼らないでください。
- ディスクの表面にボールペンや鉛筆などの硬いもので字を書くと、ディスクに傷が付くおそれがあります。
- コーヒーなどの液体をかけないでください。

- 汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
このとき、次の点に注意してください。
 - ・ シリコンクロスは使用しないでください。
 - ・ ヘアードライヤーなどで乾燥させたり、自然乾燥をさせたりしないでください。
 - ・ ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
- 使わないときは、ケースに入れて保管してください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 高温・低温の場所に保管しないでください。
- スーパーマルチドライブをお使いの場合、アプリが Blu-ray Disc に対応していても、Blu-ray Disc はお使いになれません。

ディスクを再生するうえでの注意

- ディスクの再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。
- デジタル放送を録画した DVD を初めて「WinDVD」で再生するときは、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。必ず「はい」をクリックしてください。
- ディスクによっては、正常に再生されない場合や、「WinDVD」の一部の機能が使用できない場合があります。
- 再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- 各ボタンを操作する間隔は、1 秒以上あけてください。
- 再生するディスクによっては、コマ落ちする場合があります。
- ディスクを再生する前に、他のアプリは終了させてください。
- ディスクをパソコンに接続されたデジタルテレビでご覧になる場合、お使いのデジタルテレビによってはテレビの解像度がディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。
- 著作権保護されたコンテンツ（一般的な市販の Blu-ray Disc のタイトルや Blu-ray Disc に録画したデジタル放送、AVCREC 形式で DVD に録画したデジタル放送など）は、アナログディスプレイでは再生できません。

Point

- ▶ DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません（スーパーマルチドライブ搭載機種のみ）。

■ 「WinDVD」を更新する

このパソコンには、ディスクを再生するアプリ「WinDVD」が用意されています。「WinDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。

「WinDVD」を更新するには、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」からアップデートプログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。

インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

■ AACス キーを更新する（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

Blu-ray Disc には、著作権保護技術のキーが働いています。

AACス キーは常に最新の状態に更新してお使いください。

更新方法については、下記の URL をご覧ください。

<http://www.fmworld.net/aacs/lifebook/>

ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意

- ディスクに書き込み／書き換えを行うときは、30℃以上の環境を避けてください。ディスクの書き込み／書き換えが正常に行われないことがあります。
- 書き込み／書き換え中にディスク面に傷を検出した場合、書き込み／書き換えが中断されることがあります。
- ディスクへ正常に書き込み／書き換えができない場合は、書き込み／書き換え速度を落とすことで、できる場合があります。
- DVD プレーヤーで映像を見る目的で、DVD に書き込みをする場合、画像の解像度は 720×480 に設定することをお勧めします。
その他の解像度で作成されたファイルを DVD に保存すると、一部の DVD プレーヤーで再生できない場合があります。
- 「Roxio Creator」では DVD-RAM への書き込み／書き換えは行えません。

■ 書き込み／書き換えを行う前に

ディスクに、書き込み／書き換えを行う前に、次の操作をしてください。

- 他のアプリは終了させてください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にスリープや休止状態にならないように、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「適用しない」に設定してください。
設定の変更については、「使いこなす」－「スリープ／休止状態」をご覧ください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にディスプレイがスクリーンセーバーに移行しないように次の設定をしてください。
 1.  ▶  (設定) ▶ 「個人用設定」の順にクリックします。
 2. 「ロック画面」をクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」をクリックします。
 4. 「スクリーンセーバー」の ☒ をクリックし、一覧から「(なし)」をクリックします。
 5. 「OK」をクリックします。
 6. × をクリックします。

■ 書き込み／書き換え中にはしてはいけない操作

ディスクに書き込み／書き換え中は、次の操作を行わないでください。

書き込み／書き換えに失敗する場合や、時間がかかる場合があります。

- Windows を終了する
- パソコンの電源を切る
- パソコンをスリープや休止状態にする
- 電源ボタンを押す
- ディスク取り出しボタンを押す
- **Ctrl** と **Alt** を押しながら **Delete** を押す
- ディスクを操作するボタンを押す
- 他のアプリを起動または操作する
- LAN などによるデータ転送をする

■ 一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは

一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- パケットライト方式でデータが書き込まれたディスクは、このパソコンでは読み込むことはできません。
これらのディスクの読み出しや書き込みを行う方法については、ディスクを作成するときに使用したアプリのマニュアルをご覧ください。
- 一度フォーマットや書き込みをした後は、同じアプリを使って書き換え、追記を行ってください。
- DVD+RW や DVD-RW、CD-RW、BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL（BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL は Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）に保存したファイルは、そのまま編集や更新をすることはできません。編集や更新をする場合は、次の手順で操作してください。
 1. ハードディスクにファイルをコピーします。
 2. ファイルが読み取り専用になっていたら、「読み取り専用」の属性を外します。
「読み取り専用」の属性を外すには、対象のファイルを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。プロパティウィンドウで「全般」タブをクリックし、「読み取り専用」の ☒ をクリックして ☐ にし、「OK」をクリックします。
 3. ファイルの編集や更新をし、再度ディスクへ書き込みを行います。
- このパソコンで書き込みをしたディスクは、別のパソコンやアプリで利用できない場合があります。

使えるディスク／使えないディスク

■ 使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。

Point

- ▶ お使いになるアプリによって使えるディスクは異なります。ディスクをお使いになるアプリのヘルプをご覧ください。

○：対応 ×：非対応

ディスクの種類	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD、フォト CD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○[注 1]	○[注 1]
Super Audio CD	×	×	×
DVD-Audio	×	×	×
DVD-ROM、DVD-VIDEO	○[注 2]	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○	×
DVD-RW	○	○[注 1]	○[注 1]
DVD-R+DL (8.5GB)	○	○	×
DVD+R (4.7GB)	○	○	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○[注 1]	○[注 1]
DVD+R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD-RAM (2.5GB・5.2GB)	×	×	×
DVD-RAM (4.7GB・9.4GB)	○	○[注 3]	○[注 3]

Blu-ray Disc ドライブ搭載機種の場合は、次のディスクもお使いいただけます。

○：対応 ×：非対応

ディスクの種類	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
BD-ROM	○[注 4]	×	×
BD-R (25GB)	○	○	×
BD-R DL (50GB)	○	○	×
BD-RE (25GB) [注 5]	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]
BD-RE DL (50GB) [注 5]	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]
BD-R LTH TYPE	○	○	×
BD-R XL (100GB)	○	○	×
BD-RE XL (100GB)	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]

注 1：次のディスクに書き込んだデータを削除するには、データをすべて消去する必要があります。

- ・ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータ
- ・ BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL にライティングアプリで書き込んだデータ

注 2：DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに [2] が含まれているか、もしくは [ALL] のものを再生できます。

注 3：購入した DVD-RAM や、Blu-ray Disc（BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL）を使い始めるには、フォーマットを行う必要があります。ディスクのフォーマットについては、「ディスクをフォーマットする」（→P.49）をご覧ください。

注 4：Blu-ray Disc は、リージョン（地域）コードに [A] が含まれているか、もしくは [FREE] のものを再生できます。

注 5：BD-RE Ver1.0 には対応しておりません。

■ 推奨ディスク

次のディスクの使用をお勧めします。

次の表に記載のないディスクをお使いになると、書き込み／書き換えが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

※次の表の内容は、2021年8月現在のものです。

種類	メーカー	メーカー型名
CD-R	Verbatim (バーベイトム)	SR80SP10V1、SR80SP20V1
CD-RW	Verbatim (バーベイトム)	SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1、SW80EU5V1
DVD-R	Verbatim (バーベイトム)	DHR47J10V1、DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim (バーベイトム)	DHR85HP5V1、DHR85HP10V1、DHR85HP10SV1
DVD-RW	Verbatim (バーベイトム)	DHW47Y10V1
DVD+R DL	Verbatim (バーベイトム)	DTR85HP5V1、DTR85HP10V1

Blu-ray Disc ドライブ搭載機種の場合は、次のディスクもお使いいただけます。

種類	メーカー	メーカー型名
BD-R	パナソニック	LM-BR25LDH5 (25GB)、LM-BR25LDH10 (25GB)、 LM-BR25MDH5 (25GB)
BD-R DL	パナソニック	LM-BR50LDH5 (50GB)、LM-BR50MDH (50GB)
BD-RE	パナソニック	LM-BE25DH5A (25GB)
BD-RE DL	パナソニック	LM-BE50DHA (50GB)、LM-BE50DH5A (50GB)
BD-R XL	Verbatim (バーベイトム)	DBR100YMDP5V1 (M-DISC)

■ 使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）
このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。
円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。
異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm～1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの Blu-ray 媒体（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）
規格では媒体の厚さを 1.15mm～1.3mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の Blu-ray 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 中心に穴の空いていないディスク
- 傷またはヒビの入ったディスク、ゆがんだディスクおよび重心の偏ったディスク
お使いになると、ドライブ内部で破損する場合がありますので、お使いにならないでください。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM（Type1）
DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出してお使いにならないでください。
- BD-RE Ver1.0 規格の Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）
- 市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー
お手入れのときにお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ディスクのセット／取り出しは、パソコンの電源が入っている状態のときのみ可能です。

⚠ 注意



ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。けがの原因となることがあります。



トレーに装着されているレンズに触れないでください。ディスクの再生や、ディスクへの書き込み／書き換えが正しく行えなくなる原因となります。

■ ディスクをセットする

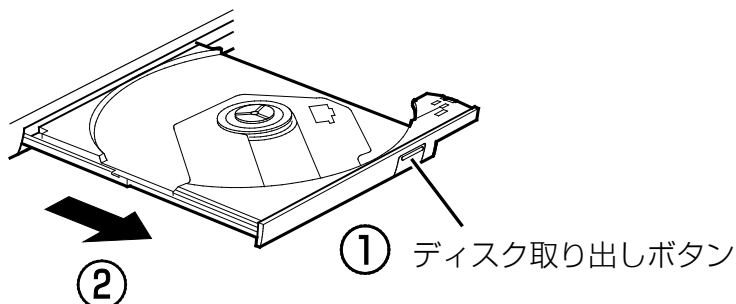
重要

- ▶ ディスクをセットするときの注意
 - ・ ディスク読み取りヘッドが移動する音がすることがあります。
 - ・ ディスクに頻繁にアクセスしたり、書き込み、書き換えをしたり、DVD-VIDEO を再生したりする場合は、パソコンに AC アダプタを接続することをお勧めします。
- ▶ ディスク使用時の注意

ディスクはデータの読み出しをするときに高速回転するため、使用時には振動や風切音がすることがあります。

1 トレーを出します。

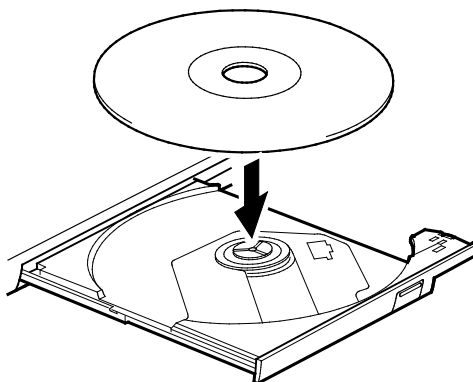
①ディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

2 トレーを支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を上（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとセットします。



重要

- ▶ ディスクはパチッと音がするまでしっかりとセットしてください。
ディスクの穴を突起にきちんとはめこまないと、ディスクがドライブ内部で外れて、読み取りができなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部およびディスクを破損する原因となります。

3 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてからパソコンで使えるようになるまで、約 30 秒かかります。

「エクスプローラー」画面の光学ドライブのアイコンがディスクのアイコンに変わったことを確認してから次の操作を行ってください。

ディスクが認識される前に次の操作をすると、ディスクが自動で取り出される場合があります。

■ ディスクを取り出す

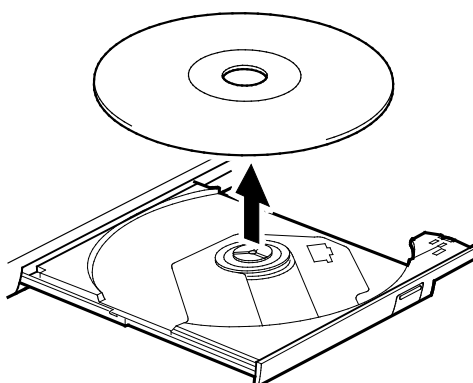
1 ディスクを利用しているアプリがあれば終了します。また、ディスク内のファイルを開いている場合はファイルを閉じてください。

2 トレーを出します。

①ディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。②トレーを静かに引き出します。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。

3 トレーを支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。



4 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

トレーを出したまま放置しないでください。

光学ドライブ内部にほこりが入り、故障の原因となります。

ディスクが取り出せなくなった場合は、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「光学ドライブのトラブル」をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

次のディスクはお使いになる前にこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット(初期化)を行う必要があります。9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

- DVD-RAM
- BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ)

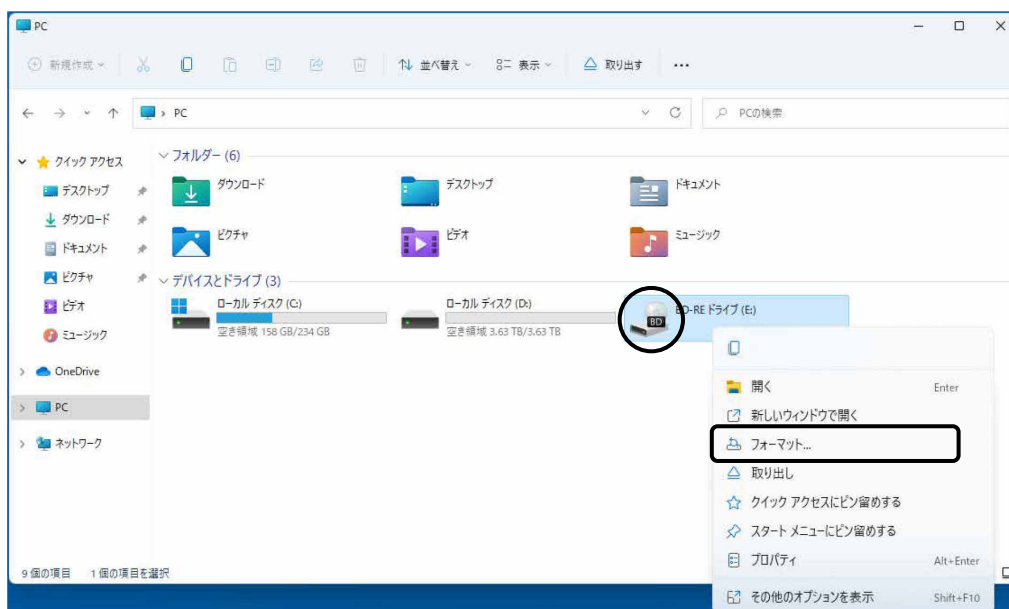
ここでは、特定のアプリを使用せずに、「エクスプローラー」から DVD-RAM などに直接データを書き込んで使用する場合のフォーマットの方法を説明します。

特定のアプリを使用して、データの書き込み、書き換えをする場合は、お使いになるアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。フォーマット形式を選択してください。



DVD-RAM ディスクや Blu-ray Disc をセットまたは取り出すときに、トレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 フォーマットするディスクをセットします。
- 2  ▶ 「すべてのアプリ」 ▶ 「エクスプローラー」の順にクリックします。
- 3 表示されたウィンドウの左側の「PC」をクリックします。
- 4 ディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから「フォーマット」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

5 「ファイルシステム」の▼をクリックしてフォーマット種別を選びます。



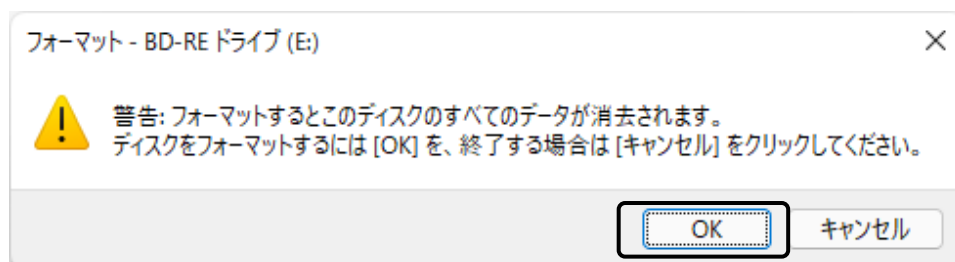
- **DVD-RAM の場合**
「UDF 2.01（既定）」を選びます。
- **Blu-ray Disc の場合（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）**
「UDF 2.50」を選びます。

Point

- ▶ 「ボリュームラベル」に入力した文字列がディスクの名前になります。ディスクに好きな名前を付けることができます。
- ▶ 「クイックフォーマット」の☒を☐にすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

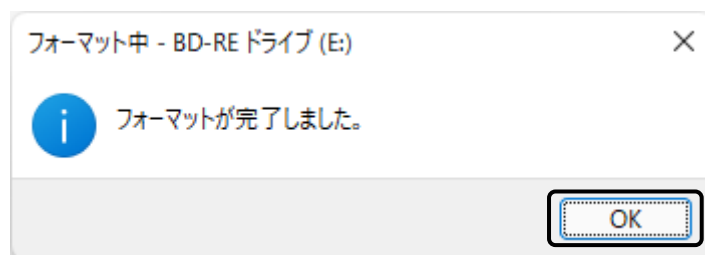
6 「開始」をクリックします。

7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



フォーマットが始まります。終了するまでしばらく待ちます。

8 フォーマット完了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



9 「閉じる」をクリックします。

メモリーカード

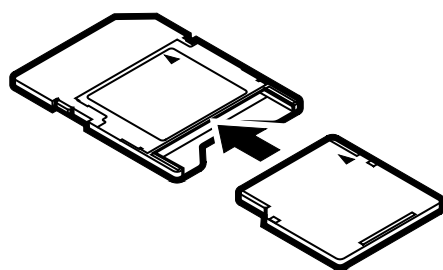
ダイレクト・メモリースロット搭載機種のみ

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

お使いになるうえでの注意

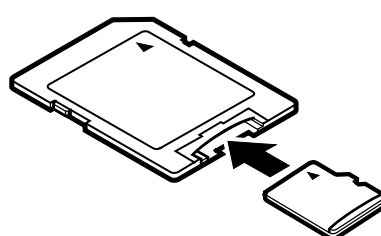
- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- 次のメモリーカードをお使いになる場合はアダプターが必要です。
 - ・ miniSD カード、microSD カード、microSDHC カード、microSDXC カード必ずアダプターに差し込んでからお使いください。
そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごとに取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

miniSD カードアダプター



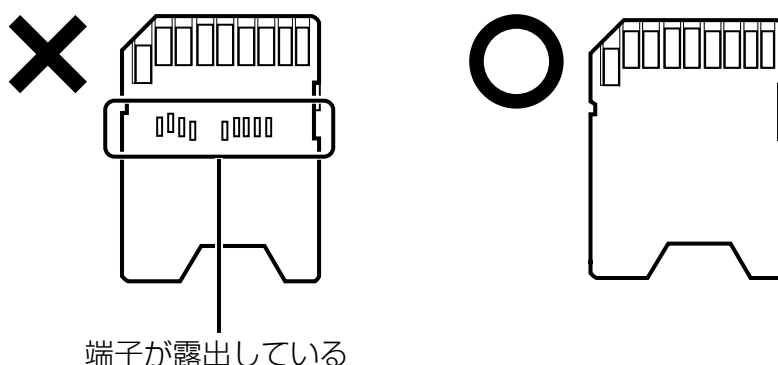
miniSD カード

microSD カードアダプター



microSD カード
microSDHC カード
microSDXC カード

- 端子が露出している miniSD カードアダプターは使用できません。
ダイレクト・メモリスロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。
miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



UHS-II 対応の SDXC カードも裏面中央部から端子が露出していますが、このカードはそのままご利用ください。

- Windows の ReadyBoost には対応していません。
- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリスロットが対応しているメモリーカードの種類は次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

 [注]	・ SD メモリーカード ・ SDHC カード ・ SDXC カード ・ miniSD カード ・ microSD カード ・ microSDHC カード ・ microSDXC カード
--	---

注：・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

- ・ SDIO カードには対応していません。
- ・ 著作権保護機能（CPRM [シーピーアールエム]）に対応しています。
- ・ LIFEBOOK AH シリーズは UHS-II に対応しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す



メモリーカードを差し込んだり取り出したりする場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



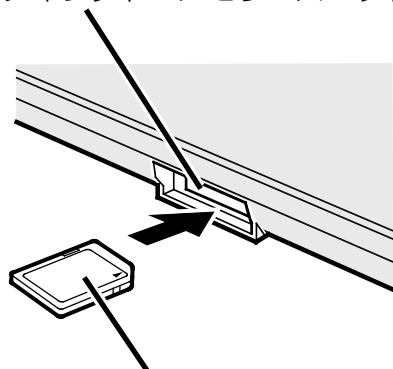
メモリーカードは小さいお子様の手の届かない場所に置いてください。お子様が口に入れたり、誤って飲み込んだりすると、けがや窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

■ メモリーカードを差し込む

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしてください。

ダイレクト・メモリースロット



製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。

SD メモリーカード (イラストは機種や状況により異なります)

メモリーカードは、少し飛び出た状態でセットされます。飛び出た部分に手や指をぶつけたり、引っかけたりしないように注意してください。

重要

- ▶ 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、エラーメッセージの表示に時間がかかることや、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されないことがあります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、差し込み直してください。

■ メモリーカードを取り出す

- 1 メモリーカードにアクセスしていないことを確認します。
- 2 画面右下のをクリックし、表示されたアイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックします。

アイコンは、など、お使いの状況により異なります。また、メモリーカードによっては、アイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。
- 3 「nnn の取り出し」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。
- 4 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードの少し飛び出た部分を持って、そのまま引き抜きます。

重要

- ▶ メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。



周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならない場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。



周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

- 周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください
- 弊社純正品をお使いください
弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただくか、富士通ショッピングサイト「WEB MART」(<https://fmv.fccl.fujitsu.com/shop/>) をご覧ください。
他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- 周辺機器に添付のドライバーがお使いの Windows に対応しているか確認してください
お使いになる周辺機器のドライバーがお使いの Windows に対応していないと、その周辺機器はお使いになれません。必ずお使いの Windows に対応したものをご用意ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1 つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください
- 周辺機器の電源について
周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- **電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタをお使いになる場合は、次のことに注意してください**
 - ・ USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続できません。
 - ・ USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。

電源オフ USB 充電機能

LIFEBOOK AH シリーズ、CH シリーズのみ

電源オフ USB 充電機能とは

電源オフ USB 充電機能とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

お使いになるときは、次の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタには、のマークがあります。場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意

- ご購入時は、パソコンに AC アダプタを接続しているときのみ、電源オフ USB 充電機能をお使いになれます。電源オフ USB 充電機能を、バッテリーのみで使用しているときにもお使いになりたい場合や、無効にしたい場合は、BIOS セットアップで設定を変更できます。詳しくは「使いこなすために」－「BIOS セットアップ」をご覧ください。
- USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。
- USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタには接続できません。
- 周辺機器によっては、電源オフ USB 充電ができない場合があります。
- スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。
なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
 - ・ デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
 - ・ 「自動再生」ウィンドウが表示される
 - ・ 接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
 - ・ 接続した USB 周辺機器と連携しているアプリが起動する
- 電源ボタンを 10 秒以上（モダンスタンバイ非対応機種の場合は 4 秒以上）押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフ USB 充電はできません。

USB Type-C 充電・給電ユーティリティ

LIFEBOOK TH シリーズ、CH シリーズのみ

USB Type-C 充電・給電ユーティリティとは

このパソコンは、充電と給電を切り替えられる USB Type-C コネクタを 1 つ搭載しています。この USB Type-C コネクタの充電／給電の切り替えを USB Type-C 充電・給電ユーティリティで行います。

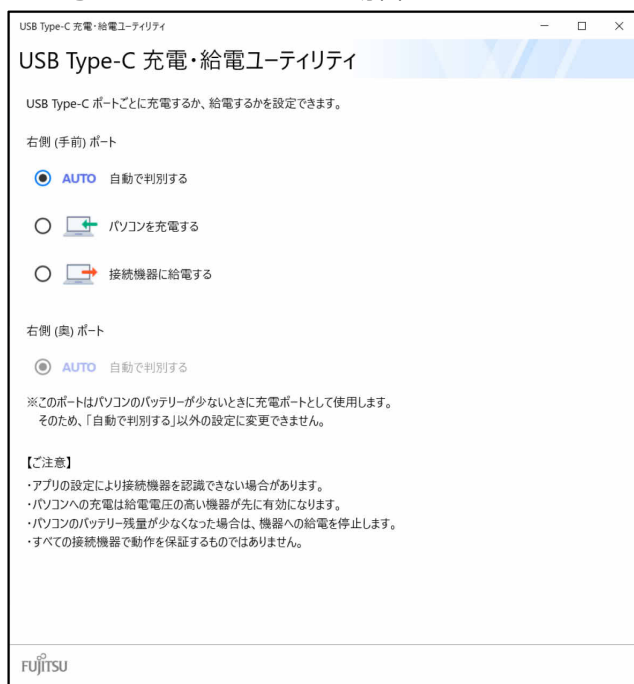
USB Type-C コネクタの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定を変更する

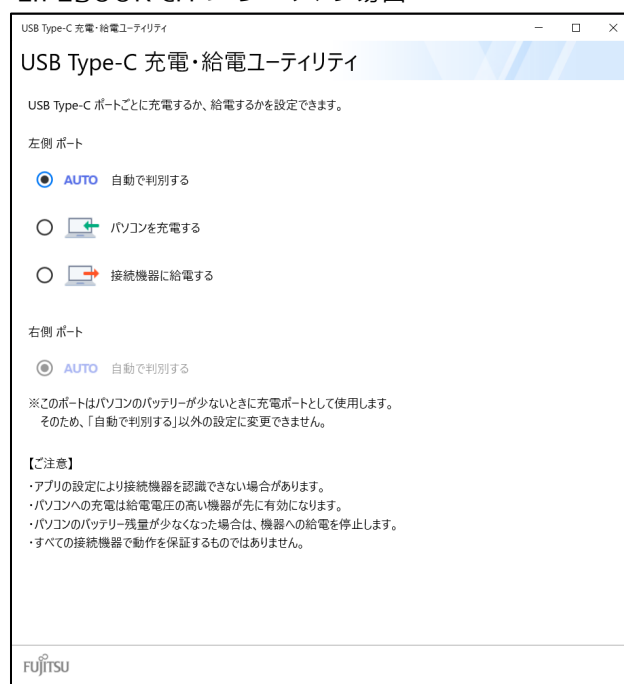
- 1   (設定) ▶ 「Extras」▶ 「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」の順にクリックします。

「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

LIFEBOOK TH シリーズの場合



LIFEBOOK CH シリーズの場合



(画面は機種や状況により異なります)

- 2 充電または給電を設定するコネクタの項目を選択します (→P.61)。
- 3 ウィンドウの右上にある  をクリックして、ウィンドウを閉じます。

■ USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定項目と充電／給電の動作

● **AUTO**（自動で判別する）

接続機器	充電／給電の動作
Type-C AC アダプタ（給電のみデバイス[注 1]）	パソコンを充電する
充電／給電対応デバイス[注 2][注 3]	パソコンの状態が変わる
充電スタンド（LIFEBOOK TH シリーズのみ）	パソコンを充電する[注 5]
USB デバイス[注 4]	接続機器として認識する

● （パソコンを充電する）

接続機器	充電／給電の動作
Type-C AC アダプタ（給電のみデバイス[注 1]）	パソコンを充電する
充電／給電対応デバイス[注 2][注 3]	パソコンを充電する
USB デバイス[注 4]	—

● （接続機器に給電する）

接続機器	充電／給電の動作
Type-C AC アダプタ（給電のみデバイス[注 1]）	—
充電／給電対応デバイス[注 2][注 3]	接続機器に給電する
USB デバイス[注 4]	接続機器として認識する

注 1：USB Power Delivery 対応で 7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能な機器

ただし、パソコンを使用しながらパソコンを充電する場合は、USB Power Delivery 対応で 65W（20V/3.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。

注 2：モバイルバッテリー、パソコン、スマートフォンなど

注 3：USB Power Delivery 対応機器のみお使いいただけます。

パソコンを充電：7.5W（5V/1.5A）以上供給可能

接続機器に給電：最大 5V/3.0A

ただし、パソコンを使用しながらパソコンを充電する場合は、USB Power Delivery 対応で 65W（20V/3.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。また、次のような場合は、パソコンを充電していてもパソコンのバッテリーが減ることがあります。

・パソコンが動作している（高負荷処理を行っているなど）

・接続機器への給電電力が大きい（消費電力の大きな機器を複数接続しているなど）

注 4：・USB メモリ、Web カメラ、ディスプレイなど

・USB デバイスを使用する場合は、「AUTO」を選択して使用することをお勧めします。

注 5：充電スタンドに AC アダプタが接続されている場合のみ充電されます。

Point

- ▶ 2 つの USB Type-C コネクタに同時にデバイスを接続し、それぞれのデバイスからパソコンを充電する場合、次のように充電されます。
 - ・ 電圧の高いデバイスから充電を行います。
 - ・ 両方のデバイスの電圧が同じ場合は、先にパソコンに接続したデバイスからの充電が継続されます。
- ▶ 接続したデバイスからパソコンへ充電が行われずに一定時間が経過すると、デバイスがスリープ状態になることがあります。この場合は充電が開始されないため、デバイスを一度パソコンから外して接続し直すと充電が開始されます。
- ▶ ご購入時は「AUTO」に設定されています。

メモリ

メモリの組み合わせを確認する

■ ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンは、次の組み合わせでメモリが搭載されています。

□ LIFEBOOK AH シリーズ

お使いの機種	総容量	メモリスロット	
		1	2
AH53/F3、AH50/F3、AH43/F3、WA1/F3[注 1]	8GB	4GB	4GB
AH42/F3、WA1/F3[注 2]	4GB	4GB	—
WA3/F3 (32GB を選択)	32GB	16GB	16GB
WA3/F3、WA2/F3、WAB/F3 (16GB を選択)	16GB	8GB	8GB
WA3/F3、WA2/F3、WAB/F3 (8GB を選択)	8GB	4GB	4GB
WA3/F3、WA2/F3、WAB/F3 (4GB を選択)	4GB	4GB	—

注 1：型名が FMVWF3A111、FMVWF3A112 以外の機種

注 2：型名が FMVWF3A111、FMVWF3A112 の機種

□ LIFEBOOK TH シリーズ [注 3]

お使いの機種	総容量	オンボードメモリ
TH90/F3、WT1/F3	16GB	16GB

注 3：LIFEBOOK TH シリーズは、メモリの増設および交換はできません。

□ LIFEBOOK CH シリーズ [注 4]

お使いの機種	総容量	オンボードメモリ
CH90/F3、CH75/F3、CH55/F3、WC2/F3、WC1/F3[注 5]	8GB	8GB
WC1/F3[注 6]	16GB	16GB

注 4：LIFEBOOK CH シリーズは、メモリの増設および交換はできません。

注 5：型名が FMVWF3C17M 以外の機種

注 6：型名が FMVWF3C17M の機種

メモリの容量を確認する場合は、「メモリ容量を確認する」(→P.69)をご覧ください。

■ メモリの組み合わせ

メモリ交換可能な機種のみ

お使いの機種によっては、メモリ容量を増やして、パソコンの処理能力などを上げることができます。メモリを増設または交換する場合は、必ず次の表のように組み合わせてください。

この表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

総容量	メモリスロット		デュアルチャネル [注]
	1	2	
4GB	4GB	—	—
8GB	4GB	4GB	8GB
	8GB	—	—
16GB	8GB	8GB	16GB
	16GB	—	—
32GB（最大）	16GB	16GB	32GB

注：デュアルチャネルとして動作する合計容量

Point

- ▶ 同じ仕様のメモリを2枚取り付けると、理論上、2倍の転送速度でデータのやり取りが可能になり性能が向上します。異なった容量のメモリの組み合わせにした場合は、少ない容量のメモリ分のみデュアルチャネルとして動作します。

メモリの取り扱い上の注意

メモリ交換可能な機種のみ

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。
- メモリの増設や交換時に、ディスプレイにネジや文房具などをはさんだり、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落としたりしないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いて、取り付け直してください。

警告



プラグを挿す

メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、ACアダプタやバッテリー、および周辺機器を取り外してください。なお、スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。また、データの消失や、パソコンやメモリの故障の原因となります。



一般指示

取り外したネジなどの部品は、小さなお子様の手の届かない場所に置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

注意



高温注意

パソコンの内部には、高温になる部分があります。

メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。やけどの原因となります。



一般禁止

メモリの取り付け／取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



接触禁止

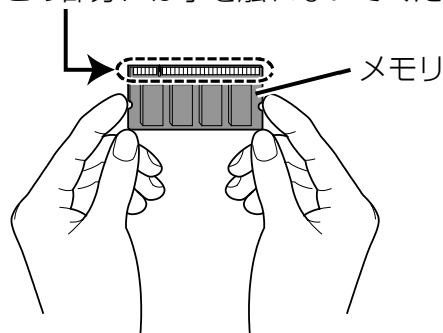
基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

- ▶ メモリを取り扱う前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。
- ▶ メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。
- ▶ メモリの表面の端子や IC 部分に触れたり押したりしないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリは下図のようにふちを持ち、金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



必要なものを用意する

メモリ交換可能な機種のみ

■ メモリ

このパソコンに取り付けられるメモリについては、富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺機器」(<https://fmv.fccl.fujitsu.com/shop/>)をご覧ください。

■ プラスドライバー（ドライバーサイズ：1 番）

ネジのサイズに合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

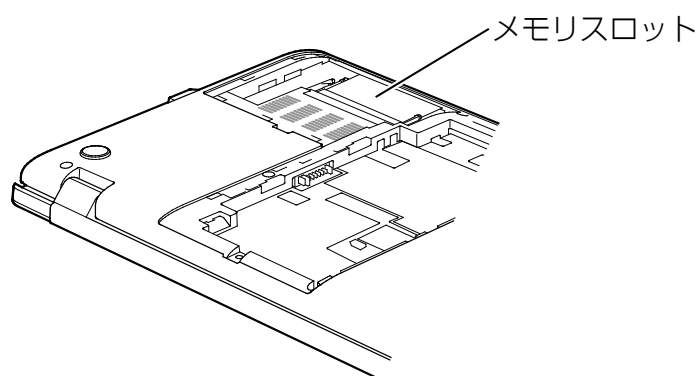
メモリの取り付け／取り外し

メモリ交換可能な機種のみ

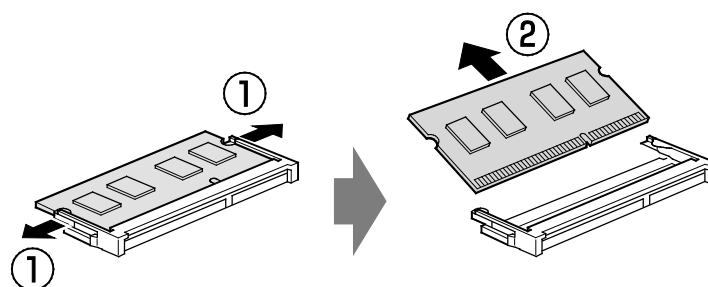
メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けられています。

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)を使って本書をご覧くださいいただくことをお勧めします。「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)について詳しくは  『取扱説明書<スタートガイド>』の「この後の使い方」をご覧ください。

- 1** パソコンの電源を完全に切り(→P.7)、10分ほど待ってからACアダプタを取り外します。
電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。
- 2** ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3** 内蔵バッテリーパックを取り外します(→P.13)。
- 4** メモリを交換する場合は、交換したいメモリを取り外します。



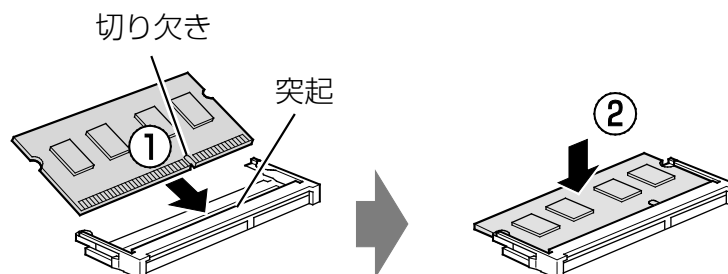
- ①メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。
- ②両手でメモリのふちを持って斜め上の方に引っ張り、メモリスロットから取り外します。



下段にあるメモリスロットのメモリを交換する場合は、上段にあるメモリスロットのメモリを先に取り外してください。

5 メモリを取り付けます。

- ①両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込みます。
- ②パチンと音がするまで下に倒します。
メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまっていることを確認してください。



Point

- ▶ メモリを 1 枚だけ取り付ける場合は、必ず下段にあるメモリスロット 1 に取り付けてください。

6 内蔵バッテリーパックを取り付けます (→P.13)。

続いて、メモリが正しく取り付けられたかメモリ容量を確認しましょう (→P.69)。

メモリ容量を確認する

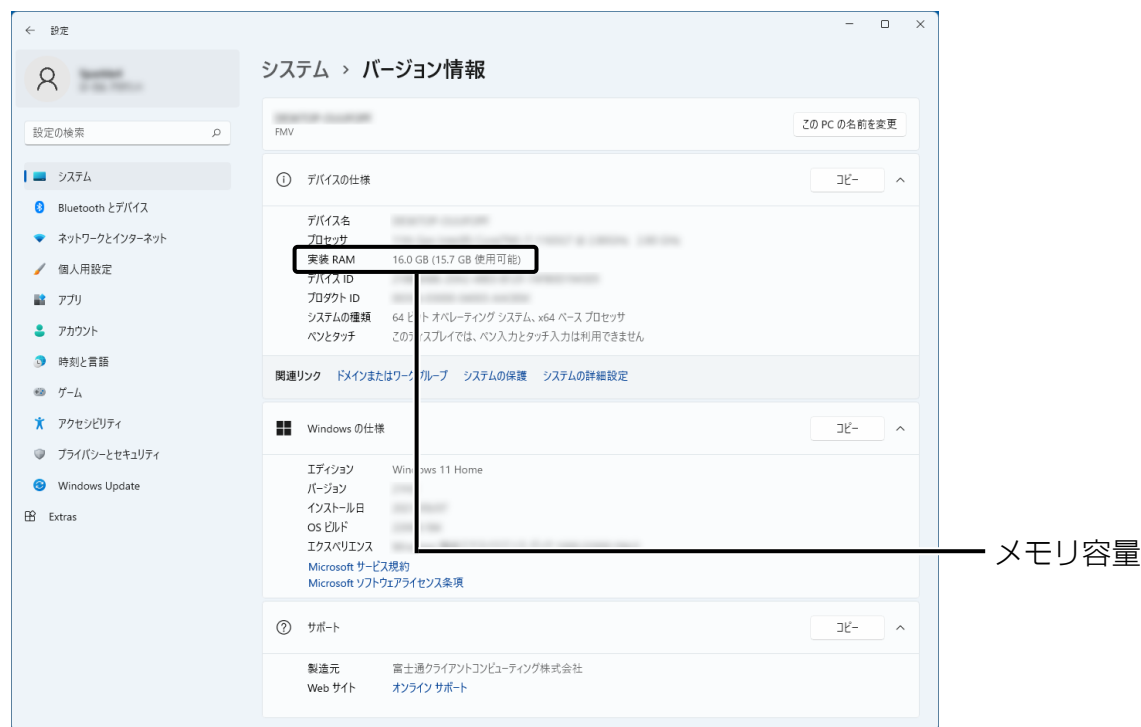
1 パソコンの電源を入れます。

「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや「Extended Memory Failed」という英語のメッセージが表示される場合や、画面に何も表示されない場合は、電源ボタンを 10 秒以上（モダンスタンバイ非対応機種の場合は 4 秒以上）押し、電源を切り、次のように対処してください。

- ・ LIFEBOOK AH シリーズの場合
メモリを取り付け直して、手順 1 からやり直してください。
- ・ LIFEBOOK TH シリーズ、CH シリーズの場合
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
この場合、以降の手順は不要です。

2 ▶ （設定）▶ 「システム」▶ 「バージョン情報」の順にクリックします。

3 「実装 RAM」欄に表示されたメモリ容量を確認します。



（画面は Windows のバージョンにより異なります）

Point

- ▶ LIFEBOOK AH シリーズでメモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかを確認してください。

4 ウィンドウの右上にある ✕ をクリックして、ウィンドウを閉じます。

充電スタンド

LIFEBOOK TH シリーズのみ

このパソコンに添付の充電スタンドを使って、パソコンに充電したり、テレビに接続して動画を楽しんだりすることができます。

LIFEBOOK TH90/F3 をお使いの場合、または、LIFEBOOK WT1/E3 でパソコン本体と一緒に購入されていない場合は、別売として用意されています。

充電スタンドをお使いになるうえでの注意

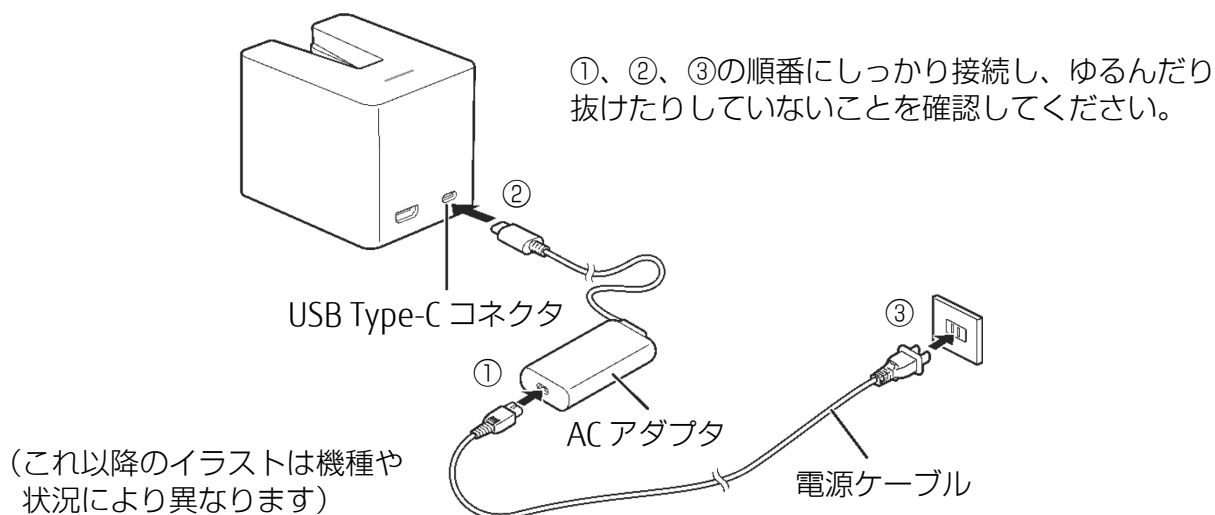
- 充電スタンドの設置場所
 - ・ 曲面、不安定な場所、凹凸のある面、ザラザラした面などに設置しないでください。
 - ・ 直射日光が当たる場所を避けて、温度 5～35℃／湿度 20～80%RH の環境でご使用ください。
- 充電スタンドの設置
 - ・ 底面のゴム足に貼りつけてある保護シートをはがし、平らな場所に設置してください。
 - ・ 設置の際、設置場所のほこり、よごれ、油分を取り除いてから設置してください。
- 充電スタンドの取り外し
 - ・ 充電スタンドを取り外すときは、設置場所の表面加工がはがれるおそれがありますので、周りの物にぶつけてけがをしないよう注意しながら、ゆっくりとはがしてください。
 - ・ ゴム足にほこりが付着した場合、湿らせた布で拭き取ることにより粘着性が戻ります。

充電スタンドを使って充電する

1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します。

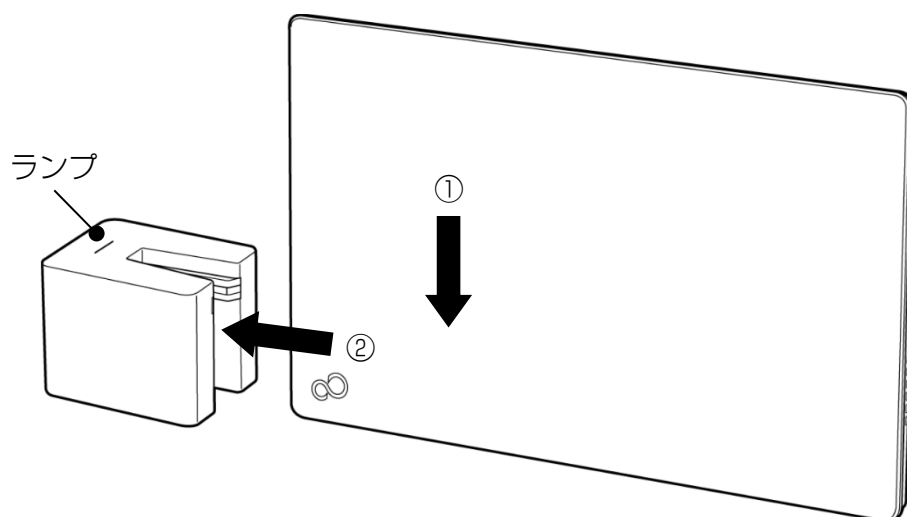
2 充電スタンドを電源に接続します。

- ①AC アダプタに電源ケーブルを接続します。
- ②充電スタンド背面の USB Type-C コネクタに接続します。
- ③電源プラグをコンセントに接続します。



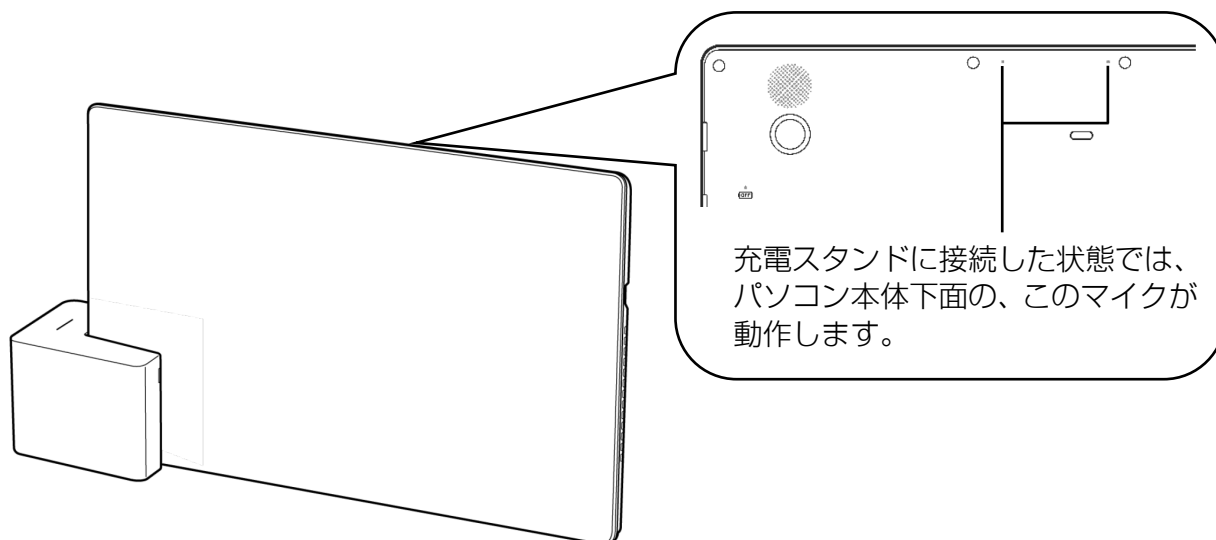
3 充電スタンドにパソコン本体を接続します。

- ①パソコン本体を充電スタンド設置面と同じ高さに合わせ、②設置面に対して並行にパソコン本体をゆっくり奥までスライドさせてください。
- 正しく接続されると、充電スタンドのランプが点灯します。



Point

- ▶ パソコン本体を充電スタンドに接続した状態で「いつもアシスト ふくまる」をお使いになる場合は、パソコンをスリープ（→P.4）にした状態で充電スタンドに接続します。



充電スタンドの HDMI 出力端子を使う

充電スタンドの HDMI 出力端子にテレビや外部ディスプレイを接続すると、パソコン本体を充電スタンドに接続した状態で動画などを表示することができます。

1 パソコンをスリープ（→P.4）にしてディスプレイを閉じます。

ご購入時の状態では、ディスプレイを閉じるとスリープになるよう設定されています（「使いこなすために」－「スリープ／休止状態」－「スリープ／休止状態の設定変更」）。この設定の場合は、スリープにすることなくパソコンが使える状態のままディスプレイを閉じても構いません。

Point

- ▶ 充電スタンドに接続したパソコンが休止状態、または、電源が切れている状態の場合は映像が出力されません。

2 「充電スタンドを使って充電する」（→P.71）の手順に従ってパソコン本体を充電スタンドに接続します。

3 市販の HDMI ケーブルで、充電スタンドの HDMI 出力端子に HDMI 機器を接続します。

HDMI 機器の入力を、充電スタンドに接続した HDMI 端子に切り替えます。
また、手順 1 でスリープにした場合は、マウスまたは別売の外付けキーボードを使ってスリープから復帰させます。

Point

- ▶ 充電スタンドに AC アダプタを接続しないと HDMI 出力端子から映像が出力されません。
- ▶ パスワードを設定している場合、充電スタンドにパソコンを接続して使用しているとき、スリープ状態が続くとパスワードを求められる場合があります。
この場合は、パスワード入力画面で  ▶ 「スクリーンキーボード」の順にクリックし、表示されたキーボードからパスワードを入力します。
別売の外付けキーボードをお使いの場合は、外付けキーボードからも入力できます。
- ▶ 充電スタンドにパソコンを接続して使用しているときにキーボードを表示する場合は、次の手順で表示できます。
 1.  ▶  (設定) ▶ 「アクセシビリティ」▶ 「キーボード」の順にクリックします。
 2. 「スクリーンキーボード」の  (オフ) をクリックして  (オン) にします。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。



感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、AC アダプタとバッテリーを取り外してください。
- プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。



清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体、キーボードやマウスのお手入れ

- パソコン本体やマウスなどの汚れを取る場合
 - ・ アセトン、シンナー、ベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、除光液、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
 - ・ アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。
 - ・ 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
 - ・ 0A クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
 - ・ 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やマウスに水が入らないよう十分に注意してください。
- キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合
 - ・ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

ディスプレイのお手入れ

- 市販のクリーナー、除光液、化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ アルコール成分を含んだもの
 - ・ アセトン、シンナー、ベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの
- ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけないでください。破損するおそれがあります。

光学ドライブのお手入れ

光学ドライブ搭載機種のみ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。